ピアノレッスンA			高橋拓真／他15名	
必修科目	実技	1単位	1年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンA」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。
・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。
・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。
・グレード６級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。

＜授業方法＞
・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。
・習熟度に合わせたグレードを受験することができる。

＜授業計画＞
第１回：ガイダンス　ピアノ学習の目的と心構え　グレード設定。
第２回：バイエル№1～№9。 正しい姿勢　椅子の高さ　指の位置。
第３回：バイエル№10～№20。 指使い　正確な音の長さの理解について。
第４回：バイエル№11～№20。 指使い　正確な音の長さの理解スラーについての確認。
第５回：バイエル№21～№30。 タイについて　鍵盤の位置。
第６回：バイエル№21～№30。 タイについて　鍵盤の位置の確認。
第７回：バイエル№31～№50。 オクターブ記号　付点音符について　全音符から８分音符までの正確な音価。
第８回：バイエル№31～№50。 オクターブ記号　付点音符について　全音符から８分音符までの正確な音価の確認。
第９回：バイエル№51～№79。 スタカート　アウフタクト　へ音記号。 童謡任意弾き歌い。
第１０回：バイエル№51～№79。 分散形伴奏　ト長調。 童謡任意弾き歌いの確認。
第１１回：バイエル№80.83.85。 前打音　手の交差奏法　ニ長調・イ長調・ホ長調・へ長調。 童謡任意弾き歌い。
第１２回：バイエル№88.89.90。 16分音符の早い動き　16分休符の意識。 童謡任意弾き歌い。
第１３回：バイエル№91.93.95。 イ短調　６度の奏法。 童謡任意弾き歌い。
第１４回：バイエル№96.97.98。 前打音装飾音符　３度の動き。 童謡任意弾き歌い。
第１５回：バイエル№80～№98.の中より任意の２曲　童謡の中より任意の２曲
※　個人指導を含む為、 同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90%　受講状況　10%
60～69点を「可」　・70～79点を「良」・80点以上を「優」として単位を認定する。

＜備考＞
初回のガイダンスを良く理解し授業に臨むこと。

ピアノレッスンB			高橋拓真／他 15 名	
必修科目	実技	1 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンB」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。
・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。
・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。
・グレード６級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。

＜授業方法＞
・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。
・グレード 10 級～１級はグレード試験を受験することができる。

＜授業計画＞
第 1 回：グレード設定の確認。　バイエル№.99.100.101.102。 複付点音符　ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第 2 回：バイエル№.99.100.101.102。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第 3 回：バイエル№.103.104.105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。
第 4 回：バイエル№.103.104.105。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第 5 回：バイエル№.103.104.105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。
第 6 回：バイエル№.100.102.104.105。 の中より任意の２曲　童謡マーチの中より任意の２曲。
第 7 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.1　童謡　マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」
第 8 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.2　童謡　マーチの中から「おとのマーチ」
第 9 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.3　童謡　マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」
第 10 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.4　童謡　マーチの中から「お料理行進曲」
第 11 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.5　童謡　マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」
第 12 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.6　童謡　マーチの中から「カレンダーマーチ」
第 13 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.7　童謡　マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」
第 14 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.8　童謡　マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」
第 15 回：ブルグミュラー　25 の練習曲№.9　童謡　マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」
※　個人指導を含む為、 同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25 の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90%　受講状況　10%
60～69 点を「可」　・70～79 点を「良」・80 点以上を「優」として単位を認定する。

＜備考＞
ピアノレッスン A に準ずる。

ピアノレッスンC			高橋拓真／他 15 名	
選択科目	実技	１単位	２年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンC」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・保育者に求められる音楽の基礎知識を学ぶ。
・鍵盤楽器奏法の基本と童謡歌曲等の伴奏法及び弾き歌いの力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・音楽の基礎知識を学び、楽譜を正確に理解し演奏する力を養う。
・鍵盤楽器奏法の基礎、童謡歌曲等の伴奏法、及び弾き歌いの方法を学ぶことで、幼児の表現活動を展開させる技術を修得する。
・グレード６級以上（バイエル修了程度）の演奏技術を修得する。

＜授業方法＞
・個々の習熟度に応じた個人レッスンを実施し、本校独自のグレード制に沿って学びを進める。
・グレード 10 級～１級はグレード試験を受験することができる。

＜授業計画＞
第１回：グレード設定の確認。　バイエル№.99.100.101.102。 複付点音符　ポジションの跳躍。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第２回：バイエル№.99.100.101.102。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第３回：バイエル№.103.104.105。 半音階奏法。 童謡・マーチの奏法。
第４回：バイエル№.103.104.105。 童謡任意弾き歌い　マーチ。
第５回：バイエル№.103.104.105。 童謡任意弾き歌いマーチの確認。
第６回：バイエル№.100.102.104.105。 の中より任意の２曲　童謡マーチの中より任意の２曲。
第７回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.1　童謡　マーチの中から「あるきましょう」「はしりましょう」
第８回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.2　童謡　マーチの中から「おとのマーチ」
第９回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.3　童謡　マーチの中から「おともだち」「オリンピア・マーチ」
第 10 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.4　童謡　マーチの中から「お料理行進曲」
第 11 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.5　童謡　マーチの中から「かけっこマーチ」「かけあしマーチ」
第 12 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.6　童謡　マーチの中から「カレンダーマーチ」
第 13 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.7　童謡　マーチの中から「きれいな小川」「子供の世界」
第 14 回：ブルグミュラー　25 の練習曲 №.8　童謡　マーチの中から「小犬のマーチ」「なかよしマーチ」
第 15 回：ブルグミュラー　25 の練習曲№.9　童謡　マーチの中から「バースデイ・マーチ」「パレードマーチ」
※　個人指導を含む為、 同様の範囲を示しているが内容は個々の進度によって異なる。

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25 の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験（各級で取得した点数の平均を最終成績とする）90%　受講状況　10%
60～69 点を「可」　・70～79 点を「良」・80 点以上を「優」として単位を認定する。

＜備考＞
ピアノレッスン A に準ずる。

ピアノレッスンD			高橋拓真／他10名	
選択科目	実技	1単位	2年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンD」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・伴奏法、弾き歌いを含む鍵盤楽器演奏技術の向上を目指す。
・多様な楽曲に触れることで豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力を修得する。

＜授業の到達目標＞
・鍵盤楽器演奏に求められる技術を修得する。
・楽譜を正しく読み解き、楽曲への理解を深めることができる。
・楽曲を豊かに表現することができる。

＜授業方法＞
・履修者に必要な課題を中心に授業計画を立て、習熟度に合わせた曲目を選択し、個々の演奏技術向上を図る。

＜授業計画＞
※取り扱い楽曲は個々の習熟度により異なる。
第１回　ガイダンス・レッスン編成
第２回　バイエル・こどものうた
第３回　バイエル・こどものうた
第４回　バイエル・こどものうた
第５回　バイエル・こどものうた
第６回　ブルグミュラー・こどものうた
第７回　ブルグミュラー・こどものうた
第８回　ブルグミュラー・こどものうた
第９回　ブルグミュラー・こどものうた
第10回 ブルグミュラー・こどものうた
第11回 ブルグミュラー・こどものうた
第12回 ブルグミュラー・こどものうた
第13回 ブルグミュラー・こどものうた
第14回 ブルグミュラー・こどものうた
第15回　実技試験・まとめ

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「全訳バイエルピアノ教則本」、「ブルグミュラー　25の練習曲」　全音楽譜出版社
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校　等

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験80%　受講状況20%

＜備考＞
初回のガイダンスを良く理解し、事前事後の練習を十分に行った上で授業に臨むこと。

ピアノレッスンＥ			高橋拓真／他５名	
選択科目	実技	１単位	２年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「ピアノレッスンＥ」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
・発声の基礎と童謡歌曲等の歌唱法を修得する。
・伴奏法、弾き歌いを含む鍵盤楽器演奏技術の向上を目指す。
・多様な楽曲に触れることで豊かな音楽性を育み、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力を養う。

＜授業の到達目標＞
・発声の基礎と童謡歌曲等の歌唱法を修得する。
・童謡唱歌や歌唱を伴ううた遊びを通して歌唱力を養い、歌唱教材についての知識・理解を深めることができる。
・楽曲を豊かに表現することができる。

＜授業方法＞
・履修者に必要な課題を中心に授業計画を立て、習熟度に合わせた曲目を選択し、個々の演奏技術向上を図る。

＜授業計画＞
※取り扱い楽曲は個々の習熟度により異なる。
第１回　ガイダンス・レッスン編成
第２回　こどものうた（こいのぼり、かたつむり、しゃぼんだま）
第３回　こどものうた（どんぐりころころ、まつぼっくり）
第４回　こどものうた（めだかのがっこう、とんぼのめがね）
第５回　こどものうた（あめふりくまのこ、もりのくまさん）
第６回　こどものうた（こぎつね、ぞうさん、やぎさんゆうびん）
第７回　こどものうた（いぬのおまわりさん、ありさんのおはなし）
第８回　こどものうた（おもちゃのチャチャチャ、やまのおんがくか）
第９回　こどものうた（ビビディバビディブー、ゆりかごのうた）
第 10 回 こどものうた（おばけなんてないさ、せんろはつづくよどこまでも）
第 11 回 こどものうた（クラリネットをこわしちゃった、おはながわらった）
第 12 回 こどものうた（おんまはみんな、ふしぎなポケット）
第 13 回 こどものうた（てのひらをたいように、とんでったバナナ）
第 14 回 こどものうた（ちいさいあきみつけた、おもいでのアルバム）
第 15 回　実技試験・まとめ

＜授業時間外学修＞
事前事後の練習を基本とする。

＜テキスト＞
「保育実用書シリーズ　こどものうた２００」小林美実編　チャイルド社
「童謡曲集」、「マーチ曲集」　聖ヶ丘保育専門学校　等

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
実技試験 80%　受講状況 20%

＜備考＞
初回のガイダンスを良く理解の上、事前事後の学習を欠かさず授業に臨むこと。

英語 A			加藤　磨理子	
必修科目	演習	1 単位	二年次	単独

教員養成課程の区分	外国語コミュニケーション
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語」
担当教員の実務経験	私立幼稚園での英語講師として勤務

＜授業概要＞
テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像資料などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。

＜授業の到達目標＞
国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語する幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。

＜授業方法＞
講義、グループワーク

＜授業計画＞
第 1 回　イントロダクション　授業の進め方、自己紹介
第 2 回　Unit1　保育の英会話への第一歩　〝The Alphabet Song〟
第 3 回　Unit1　リスニングの基本、保育の英単語　〝Finger Family〟
第 4 回　Unit2　挨拶の決まり　〝Bingo〟
第 5 回　Unit2　家庭調査票を読み取る　〝Mary Had a Little Lamb〟
第 6 回　Unit3　時刻の表し方　〝Good Morning〟
第 7 回　Unit3　持ち物のお知らせと数　〝Lazy Mary〟
第 8 回　Unit4　地図と場所　〝Sunday,Monday,Tuesday〟
第 9 回　Unit4　道案内をしてみよう　〝Head,Shoulders,Knees and Clap!〟
第 10 回　Unit5　子供の遊び　〝Happy Birthday to you〟
第 11 回　Unit5　動作と遊びの英単語　〝The Hokey-Pokey〟
第 12 回　Unit6　登園、今日の天気は？／グループワーク
第 13 回　Unit6　降園、どんな一日だった？／グループワーク
第 14 回　Unit6　自分のことを表現しよう　～したことある？／グループワーク
第 15 回　グループ発表、試験とまとめ

＜授業時間外学修＞
授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。
また授業期間に計 5 回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。

＜テキスト＞
『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著　萌文書林）

＜教科書・参考資料＞
『解きながら身につける日常会話の英単語』（くもん出版）

＜成績評価＞
実技６０％、筆記試験（単語テスト）２０％、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）２０％

＜備考＞
特になし

英語Ｂ			加藤　磨理子	
必修科目	演習	１単位	二年次	単独
教員養成課程の区分	外国語コミュニケーション			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園での英語講師として勤務			

＜授業概要＞
テキスト『保育の英会話』をベースに、歌、映像などを取り入れて、子どもが英語に親しみ新しい文化を知るきっかけを与える保育者を目指す。授業の前半ではテキスト演習の座学を中心に。後半では子ども向けの英語の歌を、歌詞の内容と子どもが興味を惹くポイントを理解した上で、保育現場で実際に使うことができるように練習をする。適宜、映像資料も視聴する。

＜授業の到達目標＞
国際化の進行する保育現場において、英語を母語とする幼児、保護者と、日本語を母語とする幼児への双方に対して、基本的な英語でのコミュニケーションが取れるようになることを目指す。保育に最低限必要な英単語を理解し、正確に発音、表記することができるようになる。

＜授業方法＞
講義、グループワーク

＜授業計画＞
第１回　イントロダクション　授業概要。前期授業とのつながり。
第２回　Unit7　保育者の一日　保育者の一日を振り返ろう　〝Twinkle,Twinkle,Little Star〟
第３回　Unit7　保育者の一日　０歳、一歳児の保育　〝London Bridge〟
第４回　Unit8　昼食の始まり、声かけをしよう　〝1,2,3,4,5 Clap Clap〟
第５回　Unit8　献立を覚えよう　〝The Wheels on the Bus〟
第６回　Unit9　トイレと排泄　〝Old MacDonald Had a Farm〟
第７回　Unit9　連絡帳　〝Row,Row,Row Your Boat〟
第８回　Unit10　子ども同士の喧嘩　〝Where Is Thumbkin?〟
第９回　Unit10　～してはいけません、～しましょう　〝Seven Steps〟
第 10 回　Unit11　怪我と病気①保護者へ報告　〝Pat-a-Cake,Pat-a-Cake〟
第 11 回　Unit11　怪我と病気②けがや病気の英単語　〝Are You Sleeping?〟
第 12 回　Unit12　電話でのやりとり／グループワーク
第 13 回　Unit14　赤ちゃんへの声かけ／グループワーク
第 14 回　Unit15　卒園／グループワーク
第 15 回　グループ発表、試験とまとめ

＜授業時間外学修＞
授業時間内で取り扱った英文法の復習のため、テキスト内の指示した箇所の問題を解き、丸付け、直しまでを完了させる。
また授業期間に計５回行う予定の単語テストの際は、試験前にあらかじめ指定した保育現場で使用する英単語の書き取り練習、テスト対策を行う。

＜テキスト＞
『保育の英会話』（赤松直子、久富陽子著　萌文書林）

＜教科書・参考資料＞
『解きながら身につける 日常会話の英単語』（くもん出版）

＜成績評価＞
実技６０％、筆記試験（単語テスト）２０％、グループワークへの積極性（最終回のグループ発表に向けて、複数で協力し合って一つの作品を作り出す姿勢に着目する。実際の保育の現場を想定して、積極的なコミュニケーションを取り合うことを目標にする）２０％

＜備考＞
特になし

環境			岸本　圭子	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務			

＜授業概要＞
保育所保育指針に示される領域「環境」について理解を深め、子どもの主体的な活動を支える環境構成の在り方を学ぶ。また、保育者が環境をどのように構成し、援助するかについて、理論と実践の両面から学ぶ。

＜授業の到達目標＞
・保育内容「環境」のねらい・内容を理解し、保育の計画や実践の中の位置づけが説明できる。
・子どもの発達や興味・関心に応じた環境構成の視点を理解し、考えることができる。
・もの・自然・数量・文字・情報・地域・文化など、多様な環境とのかかわりを踏まえた保育をイメージし、計画することができる。

＜授業方法＞
テキストやプリントに加えて、写真・動画などの視覚教材や具体的な事例を用いる。学生自身が調べながら学ぶ活動を取り入れ、グループワークや体験的な学習を通して、保育内容「環境」に関する知識と実践に生かせる考え方を身につけられるようにする。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション、子どもと環境について
第2回　保育内容「環境」の基本的な考え方
第3回　保育内容「環境」の展開　～乳児～
第4回　保育内容「環境」の展開　～1歳以上児～
第5回　保育内容「環境」の展開　～3歳以上児～
　　保育の過程(子ども理解、保育の PDCA)
第6回　物との関わり
第7回　自然との関わり①　(自然での遊び)
第8回　自然との関わり②　(指導法)
第9回　数量・図形との関わり
第10回　標識・文字との関わり
第11回　身近な情報、施設、地域、文化との関わり
第12回　行事との関わり　(保育における行事の意義)
第13回　人との関わり
第14回　まとめ・遊びを通した総合的な指導
第15回　小学校との連携・接続、試験

＜授業時間外学修＞
授業で扱った内容を復習し、授業内で終えられなかった演習や課題を進める。
次回の授業内容を踏まえ、関連する資料やテキストを読み調べ学習を行う。

＜テキスト＞

＜教科書・参考資料＞
「幼稚園教育要領解説　(平成30年3月)」文部科学省
「保育所保育指針解説　(平成30年3月)」厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　(平成30年3月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞
提出物(演習ノート・作品他)・発表など60%・試験40%

＜備考＞

基礎音楽			高橋拓真	
選択必修科目	講義	２単位	１年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「基礎音楽」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
保育者として必要な演奏の技能や基本的な音楽の仕組み(楽典)を習得することで、豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
・音楽表現の基礎を習得し、音楽の規則や仕組み(楽典)を理解している。
・音楽を表現することを通して、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。
・豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を習得することができる。

＜授業方法＞
楽典（音楽の基礎）・手あそび・歌唱・リズム課題などを用いて、音楽活動や演奏に必要な知識、技能についての基礎を学ぶ。

＜授業計画＞
第１回：ガイダンス
第２回：楽典（音楽と音、楽譜のしくみ、演奏記号）、子どもの歌、手遊び
第３回：楽典（音名、演奏記号）、小テスト、手遊び
第４回：楽典（小節、演奏記号）、小テスト、手遊び
第５回：楽典（音符と休符、演奏記号）、小テスト、手遊び
第６回：楽典（拍子とリズム、演奏記号）、小テスト
第７回：楽典（拍子とリズム、演奏記号）、小テスト
第８回：楽典（音程、演奏記号）、小テスト
第９回：楽典（音程、演奏記号）、小テスト
第 10 回：楽典（音階と調、演奏記号）、小テスト
第 11 回：楽典（音階と調、演奏記号）、小テスト
第 12 回：楽典（和音とコード、演奏記号）、小テスト
第 13 回：楽典（和音とコード）
第 14 回：まとめ　（筆記試験対策）
第 15 回：学期末試験・振り返り授業

＜授業時間外学修＞
事後学修としてノート又は資料を整理し理解を深めること。

＜テキスト＞
「子どものための音楽表現技術－感性と実践力豊かな保育者へ－」　今泉明美．他編　萌文書林
「新・たのしい子どものうたあそび-現場で活かせる保育実践-　第２版」　木村鈴代編　同文書院

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
学期末試験 80%　小テスト 20%
60～69 点を 「可」 ・70～79 点を 「良」 ・80 点以上を 「優」 として単位認定する。

＜備考＞
全ての授業への参加・所定の課題実施が、学修を完遂するための必須条件である。

基礎身体表現			渡辺潤一	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「基礎身体表現」			
担当教員の実務経験	専門学校・短期大学等において、レクリエーション（体育実技を含む）科目の担当教員として勤務			

＜授業概要＞
・スポーツ実技等の基礎運動を行い身体表現に必要な運動能力、体力の維持増進を図る。
・様々な身体表現の場に応じたレクリエーション財の習得をめざす。

＜授業の到達目標＞
・授業を通して自らの健康観を高め日常生活の中で身体表現、レクリエーション活動に親しむ態度を養う。
・将来保育現場においてレクリエーションに関する研修会等でリーダー的役割を担える保育者になれることをめざす。

＜授業方法＞
・レクリエーション財等の紹介および実践

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション他
第2回　基礎運動、レクリエーション実技・理論
第3回　基礎運動，レクリエーション実技・理論
第4回　基礎運動、レクリエーション実技・理論
第5回　基礎運動，レクリエーション実技・理論
第6回　基礎運動、レクリエーション実技・理論
第7回　基礎運動，レクリエーション実技・理論
第8回　基礎運動，レクリエーション実技・理論
第9回　基礎運動，レクリエーション実技演習
第10回　基礎運動，レクリエーション実技演習
第11回　基礎運動，レクリエーション実技演習
第12回　基礎運動，レクリエーション実技演習
第13回　基礎運動、レクリエーション実技演習
第14回　基礎運動，レクリエーション実技演習
第15回　授業総括および課題レポートについて

＜授業時間外学修＞
・日常生活の中で健康づくりの実践および授業内容の復習

＜テキスト＞
・特になし

＜参考書・参考資料＞
・必要に応じて適宜配布を行う

＜成績評価＞
・授業への取り組み、レポート等で評価

＜備考＞

倫理学			亀浦　香蓮奈	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」
担当教員の実務経験	―

＜授業概要＞

古代ギリシアから 19 世紀に至る西洋倫理思想の主要な思想家を取り上げ、倫理学の基本的な課題について考察する。

＜授業の到達目標＞

1. 多様な西洋倫理思想の基本的な考え方と特徴を理解する。
2. 倫理思想を手がかりに、自分自身の価値観や他者との関わり、社会のあり方について問い直し、倫理的な問題を多面的に考察できる。

＜授業方法＞

レジュメに基づく講義を中心とし、適宜グループワークを実施する。

＜授業計画＞

第 1 回　ソクラテス：「善く生きる」とは何か
第 2 回　プラトン：正義と魂の調和
第 3 回　アリストテレス：徳と中庸
第 4 回　ユダヤ・キリスト教倫理：律法と愛
第 5 回　ホッブズ：自然状態と契約
第 6 回　ロック：自然権と抵抗権
第 7 回　中間試験　ディスカッション
第 8 回　スミス：共感と公平な観察者
第 9 回　ルソー①：文明と自尊心
第 10 回　ルソー②：一般意志と道徳的自由
第 11 回　カント①：自律と義務
第 12 回　カント②：幸福と最高善
第 13 回　ベンサム：功利性の原理
第 14 回　ミル：自由と個性
第 15 回　期末試験　ディスカッション

＜授業時間外学修＞

授業内容に関する配布資料を読む

＜テキスト＞

特になし

＜参考書・参考資料＞

特になし

＜成績評価＞

小テスト（14 回）20%、リアクションペーパー（15 回）20%、中間試験 20%、期末試験 40%

＜備考＞

特になし

教育課程総論			大西　健介	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎理念に関する科目「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育の計画と評価」			
担当教員の実務経験	公立小学校にて非常勤講師として勤務			

＜授業概要＞

教育課程や保育の計画（全体的な計画・指導計画）の必要性や作成の意義を理解することを目標とする。教育課程に求められている点や実践の背景にある理論の知識を習得し、実際の保育現場と教育現場の接続の意義についても理解する。

＜授業の到達目標＞

・現場における教育課程や保育の計画に関する知識を習得する。

・子どもの発達を考慮した教育課程や保育の計画の在り方についての考えを述べることが出来る。

＜授業方法＞

講義を中心に行うものの、現代の教育課題に関するディスカッションを実施する予定。

＜授業計画＞

第 1 回　教育課程の必要性

第 2 回　教育課程の歴史と制度

第 3 回　潜在的カリキュラムについて

第 4 回　幼稚園の教育課程

第 5 回　乳幼児期の発達と就学前教育

第 6 回　教育課程・全体的な計画と指導計画の共通点

第 7 回　全体的な計画と計画の立案

第 8 回　教育課程編成と長期の指導計画

第 9 回　短期指導計画の作成

第 10 回　全体な計画の編成と指導計画の作成

第 11 回　指導計画の実践

第 12 回　教育課程・指導計画の PDCA サイクル

第 13 回　幼少連携の意義と課題

第 14 回　定期試験

第 15 回　まとめと今後の展望

＜授業時間外学修＞

事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容までは、次回までに着実に理解しておくこと(初回時を除く)。

＜テキスト＞

松村 和子 他『就学前教育の計画を学ぶ 教育課程・全体的計画から指導計画へ』(ななみ書房,2017 年)

＜参考書・参考資料＞

幼稚園教育要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）

＜成績評価＞

リアクションペーパー10% 中間レポート 40%　定期試験 50%

＜備考＞

教育学			亀田良克	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
教育とは、誰かが意図的に他者の学習を組織化しようとする営みである。本授業では、この人間にとって本質的ともいえる教育という営みについて、その意義や目的、かかえている諸課題について具体的な事例や文学作品、視聴覚教材等を用いて学んでいく。授業を通して、教育に携わっていく皆さんの教育観を構築するための一助となれば幸いです。

＜授業の到達目標＞
①教育の意義や目的をはじめ教育に関する諸問題の状況について理解する。
②事例や文学作品および視聴覚教材等を手掛かりにして教育に関する諸問題の背景や解決の糸口について考究する。
③ペアワークやグループワークなどの学びを通して、教育について多角的に捉えることのできる視点を身につける。

＜授業方法＞
基本的には講義を中心に進めていくが、個人ワーク、ペアワークやグループワークなどのディスカッションも取り入れて展開していく。

＜授業計画＞
第1回　イントロダクション
第2回　教えることと学ぶこと
第3回　学校とは何か
第4回　不登校問題について
第5回　管理的集団の問題点について
第6回　管理的集団と個人の尊厳
第7回　訓育とは
第8回　いじめ問題について
第9回　学力とは
第10回　障がいと子ども
第11回　特別支援教育について
第12回　家庭と教育
第13回　教育の目標と評価について
第14回　教育とは
第15回　まとめと定期試験

＜授業時間外学修＞
各回の授業終了時に次回の学修内容を伝達するので授業前にインターネット等で調べてから授業に臨むこと。また、授業内で学んだ重要なキーワードを中心に配布資料に目を通し、講義内容について各自で復習をして定期試験に備えること。

＜テキスト＞
特にありません。講義資料は適宜配布します。

＜参考書・参考資料＞
『ヒューマニティーズ教育学』広田照幸、岩波書店
『教育学がわかる辞典』田中智志、日本実業出版社
『映像と旅する教育学―歴史・経験のトビラをひらく―』倉石一郎、昭和堂

＜成績評価＞
授業内試験80 点および小レポート20 点の計100 点満点のうち60 点以上で単位を認定する。

＜備考＞

教育原理			太田淳平	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「教育原理」			
担当教員の実務経験				

＜授業概要＞
本授業は、教育の原理・思想について学ぶとともに、現在の教育課題についての理解を深めることを目的とする。しかしそのことにとどまらず、現代の日本及び世界の教育現場が抱える諸課題に対して、他者との対話もしながら、自分自身の回答を考えてもらいたい。

＜授業の到達目標＞
① 学校や子ども、公教育など、教育を取り巻くキーワードについて、歴史を紐解きながら理解する。
② 近代教育思想をおさえながら、公教育の考え方や制度の成立、国民国家との関係性について、歴史をもとに理解する。
③ 情報化社会の発展など、現代社会における教育課題について理解し、自分の意見や考えを言語化する。

＜授業方法＞
講義形式だが、ディスカッションや意見発表なども伴う。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション：教育とは
第2回　子どもとは①：歴史のなかの子ども
第3回　子どもとは②：乳幼児期の特徴
第4回　公教育という考え方
第5回　現代における教育と福祉
第6回　古代・中世における教育
第7回　近代教育思想①：ロック，ルソー，カント
第8回　近代教育思想②：ペスタロッチー，フレーベル，ヘルバルト
第9回　近代学校の成立（西洋）
第10回　新教育の思想：エレン・ケイ，モンテッソーリ，デューイ
第11回　近代学校の成立と新教育（日本）
第12回　戦後の日本の教育
第13回　学びとは：生涯学習・学力
第14回　情報化社会のなかの公教育
第15回　まとめ・期末試験

＜授業時間外学修＞
テキストの該当箇所を授業のたびに予習・復習をすることを求める。

＜テキスト＞
木村元・汐見稔幸編『アクティベート教育学01　教育原理』ミネルヴァ書房、2020年。

＜参考書・参考資料＞
特になし

＜成績評価＞
1）　授業レポート（20%）
2）　小テスト（20%）
3）　期末試験（60%）

＜備考＞
特になし

教職概論			太田淳平	
必修科目	講義	2単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「保育者論」			
担当教員の実務経験				

＜授業概要＞
本授業では、現代社会における教師及び保育者の位置づけや、守らなければならない義務、期待されている役割などについて学ぶ。さらに教師および保育者の仕事に必要な資質能力や協働について学ぶ。そして社会の変化とともに、教師や保育者への期待やまなざしが大きく変化していくことを理解する。

＜授業の到達目標＞
① 教師・保育者に期待されている役割、果たさなければならない義務について理解する。
② 教師・保育者に求められている資質能力や専門性について理解する。
③ 同僚となる保育者や家庭・社会との連携について理解する。
④ 教師・保育者の仕事の特徴や本質について理解する。

＜授業方法＞
講義形式だが、ディスカッションや意見発表なども伴う。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション：教育・保育という仕事とは？
第2回　教育・保育の仕事に就くために
第3回　教職の服務と身分保障
第4回　教職・保育者の歴史的変遷
第5回　幼稚園教諭・保育者の一日
第6回　日本の教職の特徴：海外との比較を通じて
第7回　子どもの内面や発達を理解する／子どもの遊びを援助する
第8回　個と集団を生かす／省察する力
第9回　家庭や地域との連携・支援
第10回　教材などを通して学びを深める
第11回　多様な子どもの理解と支援
第12回　学び続ける教師
第13回　教師・保育者の専門性：レジリエンス・協働・同僚性
第14回　教師・保育者の仕事：子どもとどのように向き合うのか
第15回　まとめ・期末試験

＜授業時間外学修＞
テキストの該当箇所を授業のたびに予習・復習をすることを求める。

＜テキスト＞
大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸編『アクティベート保育学　02　保育者論』ミネルヴァ書房、2019年。

＜参考書・参考資料＞
① 佐久間亜紀，佐伯胖編著『アクティベート教育学2 現代の教師論』ミネルヴァ書房、2019 年。

＜成績評価＞
1）　授業レポート（20%）
2）　小テスト（20%）
3）　期末試験（80%）

＜備考＞
テキスト以外に、〈教科書・参考資料〉①『アクティベート教育学2 現代の教師論』の内容も踏まえ授業を展開するため、参照することを勧める。

健康			蛯原　正貴	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	公立小学校にて小学校教諭として勤務			

＜授業概要＞
この科目では、保育所保育指針に示される「健康」領域に関して理解を深めるとともに、基本的生活習慣や運動遊び、疾病の予防や安全管理などの子どもが健康に育つために必要な知識について解説を行う。特に、運動不足の解消やアレルギー対応などの現代的課題については、最新のデータを基に情報機器等を用いながら授業を進める。

＜授業の到達目標＞
1．幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育保育要領について理解し、健康の定義や健康課題について説明できる。
2．乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解している。
3．乳幼児期の安全な生活と怪我や病気の予防について説明できる。
4．危険に関しリスクとハザードの違いを含む安全管理を理解している。
5．乳幼児期の日常生活における身体活動の在り方を説明できる。

＜授業方法＞
討議(ディスカッション・ディベート)、グループワーク、調べ学習

第1回　領域「健康」についての理解（「健康」の意義と現代的課題の把握）
健康の意義について理解し、現代の健康問題について把握する。
予習：「健康」の意義について調べておく（30分）。
復習：健康の意義、現代の課題についてまとめる（30分）。

第2回　領域「健康」のねらい及び内容
発達段階別の領域「健康」のねらい、内容について学ぶ。
予習：領域「健康」とはどのような領域なのか調べておく（30分）。
復習：発達段階別の「健康」のねらい、内容についてまとめる（30分）。

第3回　乳幼児期の身体的発達
乳幼児期の身体的発達の特徴についてデータを基に理解する。
予習：乳幼児期の発達曲線について調べておく（30分）。
復習：乳幼児期の発達の特徴について、データの読み取りを含めてまとめる（30分）。

第4回　乳幼児期の基本的生活習慣
基本的生活習慣の発達の特徴について学ぶ。
予習：基本的生活習慣とは何なのか調べておく。(30分)。
復習：基本的生活習慣の発達の特徴についてまとめる（30分）。

第5回　乳幼児期の「食を営む力」
乳幼児期の食育の意義について学ぶ。
予習：幼児期の食育とは何か調べておく（30分）。
復習：食育について理解し、実践的取り組みについてまとめる（30分）。

第6回　乳幼児期における運動の特徴及び周囲との関わり
具体的な乳幼児期の遊びについて理解し、周囲との関わりを含めた遊びの内容について学ぶ。
予習：乳幼児期における運動の特徴について調べておく（30分）。
復習：授業内容を振り返り、乳幼児期の具体的な遊び例についてまとめる（30分）。

第7回　第1回から第6回までの内容の確認（中間レポート）
第1回から第6回までの到達目標に対する到達度を確認する中間レポート作成
予習：第1回から第6回までの内容を振り返っておく（30分）。
復習：授業で振り返りが不十分であった部分を補足する（30分）。

第 8 回　遊びとしての運動の重要性
運動遊びの有効性、重要性について学ぶ。
予習：運動遊びの有効性について調べておく（30 分）。
復習：運動遊びの重要性についてまとめる（30 分）。

第 9 回　乳幼児の心の安定
乳幼児期の精神的発達について理解し、その関わり方について学ぶ。
予習：乳幼児期の精神的発達について調べる（30 分）。
復習：授業内容を振り返りながら、具体的な関わり方について学ぶ（30 分）。

第 10 回　慢性疾患を含む疾病の予防及び対応
乳幼児期の疾病やケガの特徴を理解し、対応について学ぶ。
予習：乳幼児期に発病しやすい疾病について調べておく（30 分）。
復習：乳幼児期注意すべき疾病とその対応についてまとめる（30 分）。

第 11 回　保育環境と安全
安全な保育環境について、具体例を見ながら学ぶ。
予習：安全な保育環境はどのようなものなのか調べ、考えておく（30 分）。
復習：安全な保育環境を構築するための方法、考え方についてまとめる（30 分）。

第 12 回　領域「健康」の変遷及び小学校との連携
領域「健康」の変遷から小学校の連携について時系列に学ぶ。
予習：領域「健康」がつくられた背景について調べておく（30 分）。
復習：これからの保育者が求められることについて考え、まとめる（30 分）。

第 13 回　運動遊びを含む身体活動の在り方について
現代における身体活動の在り方について、日常生活を例に学ぶ。
予習：現在の自分自身の運動習慣について振り返っておく（30 分）。
復習：これから必要となっている身体活動についてまとめる（30 分）。

第 14 回　健康を育む指導案について
これまでの授業内容を踏まえた指導案の作成過程について学ぶ。
予習：これまでの授業内容を振り返っておく（30 分）。
復習：指導案作成において注意すべき点をまとめる（30 分）。

第 15 回　まとめ（期末レポート）
第 8 回から第 14 回までの到達目標に対する到達度を確認する期末レポート作成。
予習：14 回までに学んだことを振り返っておく（30 分）。
復習：レポートにまとめた内容の活用方法について考える（30 分）。

＜授業時間外学修＞
上記＜授業計画欄＞参照。

＜テキスト＞
特になし。

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)
保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省)

＜成績評価＞
到達目標に対する到達度を確認する中間レポート：50%
到達目標に対する最終到達度を確認する期末レポート：50%

＜備考＞
レポートの提出や連絡事項については、Google classroom を使用します。
第 1 回の授業でも説明をしますが、可能であれば、Google classroom のアプリをダウンロードしておいてください。（スマートフォンをお持ちでない方は初回の授業時にご相談ください。）
また、中間レポート、期末レポート作成時には Google ドキュメントを使用します。Classroom と併せてダウンロードをしておいてください。

言葉			西山　国江	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	保育士・幼稚園教諭養成校に教員として勤務			

＜授業概要＞

保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深める。また、幼児の言葉の発達に即した言葉遊びや児童文化財を適宜活用する技術を体験的に学び、実践力を養う。

＜授業の到達目標＞

・領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。
・幼児の発達にともなう児童文化財の意義を理解する。
・言葉遊びや児童文化財を活用し、実践力の技術を修得する。

＜授業方法＞

・視覚教材を使用する。
・調べ学習を通して、「言葉」に関する知識を修得する。
・グループワークや体験学習を通して、保育現場における「言葉」の位置づけ、理解を深め、技術を修得する。

＜授業計画＞

第1回　オリエンテーション/子どもの育ちと領域「言葉」
第2回　人間と言葉
第3回　乳幼児の言葉の獲得
第4回　言葉の豊かさと言葉遊び
第5回　児童文化財①[おはなし]
第6回　児童文化財②[紙芝居]
第7回　児童文化財③[絵本とは何か]
第8回　児童文化財④[絵本と子ども]/児童文化財の振り返り
第9回　0歳児クラスの子どもたち
第10回　1歳児クラスの子どもたち
第11回　2歳児クラスの子どもたち
第12回　3歳児クラスの子どもたち
第13回　4歳児クラスの子どもたち
第14回　5歳児クラスの子どもたち/言葉の振り返り
第15回　言葉を育む保育の構想・言葉に関する諸問題

＜授業時間外学修＞

授業内容を確認し、課題を通して理解の定着を図る。学習したことを参考にレポートを作成する。

＜テキスト＞

保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」[第2版]　馬見塚明久[編著]　　ミネルヴァ書房

＜参考書・参考資料＞

・幼稚園教育要領（平成３０年３月告示　文部科学省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成３０年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
・保育所保育指針（平成30年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞

試験30%　課題40%　レポート30%

＜備考＞

特になし

子どもの健康と安全			遠藤由美子	
必修科目	演習	１単位	２年次	単独
教員養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(子どもの健康と安全)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「(子どもの健康と安全)」			
担当教員の実務経験	看護師として小児科や救急救命センターに勤務。 相模原市保健予防課で子どもの予防接種と健診で勤務。			

＜授業概要＞
健康状態の観察、 子どもの身体測定、 生理機能の測定、 精神・運動発達機能の評価と記録の方法等演習を通して理解する。 また、災害時の対応や対策、緊急時の対応等の方法等子どもが成長する過程で保険対応として必要な対応の技術を習得する。

＜授業の到達目標＞
保育における保健的な視点から、保育環境や援助について知識を深める。また、各種ガイドラインを用いた、安全対策を保育の視点で理解する。さらに、子どもの健康や安全の管理について組織的取り組みや保健活動の計画や評価方法について具体的に理解する。

＜授業方法＞
配布された資料に従い、演習を行いながら学習を進める。授業により、ICT を活用し質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション　子どもの健康と保育環境
第２回　子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理（課題　１）
第３回　保育における衛生管理　（課題　２）
第４回　保育における事故防止と安全対策、危機管理　（課題　３）
第５回　保育における災害への備え　（液体ミルクや使い捨て哺乳瓶）（課題　４）
第6回　体調不良及び障害発生時の応急処置と対応（課題　５）
第7回　救急処置及び救急蘇生法　（AEDの使用方法）（課題　６）
第８回　感染症の集団発生の予防と発生後の対応（ノロウイルスの対応・手袋のはめ方・外し方おむつの捨て方）　（課題　７）
第９回　保育における保健的対応（課題　８）
第10回　３歳児未満児への対応　（子どもの扱い方）（課題　９）
第 11 回　個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患・アレルギー性疾患）（課題　１０）
第12回　障害のある子どもへの対応　（歯磨きの仕方）（課題　１１）
第 13 回　職員間の連携・協働と組織的取り組み（家庭・専門機関・地域の関係機関）（課題　１２）
第14回　保育における保健活動の計画及び評価（成果物）
第 15 回　心豊かな子どもに育てるために（成果物）

＜授業時間外学修＞
授業１～１５において家庭学習（課題への取り組み：60 分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより指定場所・期日提出）

＜テキスト＞保育者養成シリーズ　子どもの健康と安全　林邦雄・谷田貝公昭監修　　株式会社　一藝社

＜教科書・参考資料＞**保育所保育指針解説平成２９年３月告示　厚生労働省**

＜成績評価＞
学生に対する評価：①提出課題合計９６点（課題１～１２が各８点、含む）②成果物評価　４点
＊授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として評価対称としない。ただし、提出物の受理は行う。
＊課題は、毎授業で基本課される。
＊提出期日が超過した場合には、大幅に減点をする。
①　②を合計で１００点。８０点以上「優」、７０～７９点「良」、６０～６９点「可」、５９点以下「不可」とする。

＜備考＞特になし

子どもの食と栄養 A			石田春代	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの食と栄養」			
担当教員の実務経験	公立病院、保育所にて管理栄養士として勤務			

＜授業概要＞

乳幼児期の子どもの食生活は、成長と共に大きく変化する。本授業では、子どもの健康的な食生活を支援するために必要な栄養に関する基礎知識、および発達段階や状況に応じた食事の提供方法や支援に必要な知識を学び、保育現場における食生活支援や食育活動が実践できる力を身につける。

＜授業の到達目標＞

1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を修得する。

2.子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。

＜授業方法＞

A は基本的には講義形式であるが、グループワーク、調べ学習、討議などを行う。

※4･7 回：調べ学習　6 回：体験学習　8･13 回：グループワーク　★は Web テスト

＜授業計画＞

第 1 回　子どもの心身の健康と食生活（子どもの心身の健康と食生活および食生活の現状と課題）

第 2 回　栄養に関する基礎知識①（栄養の概念、炭水化物、脂質、たんぱく質）★

第 3 回　栄養に関する基礎知識②（ビタミン、ミネラル）★

第 4 回　栄養に関する基礎知識③（日本人の食事摂取基準、食生活チェック）

第 5 回　栄養に関する基礎知識④（衛生管理）★

第 6 回　栄養に関する基礎知識⑤（食べ物の消化と吸収）★

第 7 回　栄養に関する基礎知識⑥（食品表示）

第 8 回　栄養に関する基礎知識⑦（食品表示に関するグループワーク）

第 9 回　子どもの発育・発達と食生活①（胎児期（妊娠期）の栄養の意義）★

第 10 回　子どもの発育・発達と食生活②（乳汁栄養①母乳）★

第 11 回　子どもの発育・発達と食生活③（乳汁栄養②人工乳）★

第 12 回　子どもの発育・発達と食生活④（水分補給について）

第 13 回　子どもの発育・発達と食生活⑤（離乳の必要性と離乳食の進め方）★

第 14 回　子どもの発育・発達と食生活⑥（乳幼児期の発育発達）演習　母子手帳持参

第 15 回　筆記試験　まとめと振り返り

＜授業時間外学修＞

予習：教科書の該当箇所を読み疑問点などをまとめておく　復習：資料等を見返し学びを整理する

＜テキスト＞森脇千夏著『イラスト　子どもの食と栄養』（東京教学社）　ISBN：978-4-8082-6060-6

＜参考書・参考資料＞

・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）

・楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長　雇児保発第 0329001 号平成 16 年 3 月 29 日）別途指定する。

＜成績評価＞

1.筆記試験 40%、Web テスト 30%、レポート 20%、レポート提出状況等 10%を考慮して評価する。

＜備考＞教科書を輪読しますので、必ず準備してください。

子どもの食と栄養 B			内田　由佳	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの食と栄養」			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
子どもの食事形態は成長と共に乳汁から固形物の食事へと大きく変化する。本授業では、ライフステージ別の食生活の特徴と栄養の基礎知識、および食事の提供場所や発達に応じた食事の特徴と支援に必要な知識を学ぶ。さらに、保育現場における食生活支援や食育活動が実践できる力を身につける。

＜授業の到達目標＞
1.食育の基本とその内容及び子どもへの食育の特徴について説明できる。
2.ライフステージ別の食生活、家庭、児童福祉施設における食生活の特徴について説明できる。
3.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できる。

＜授業方法＞
B では、講義の他、AB で学んだ基礎知識を活用した食育実践のためのグループワークと発表を行う。
1･5･9･回：体験ワーク　7･11･12 回：グループ学習　13･14 回：プレゼンテーション

＜授業計画＞
第 1 回ライフステージ別栄養と食生活 - 幼児期①（幼児期の食事）◎
第 2 回ライフステージ別栄養と食生活 - 幼児期②（幼児期の心身の発達・食事支援）◎
第 3 回ライフステージ別栄養と食生活 - 学童期・思春期（学童期・思春期の心身の発達と食生活）◎
第 4 回ライフステージ別栄養と食生活 - 生涯発達①（成人期の特徴と食生活・生活習慣病）◎
第 5 回ライフステージ別栄養と食生活 - 生涯発達②（高齢期の特徴と食生活）◎
第 6 回食育の基本と内容①（食育基本法、食育における用語と教育の一体性、地域の関係機関や職員間の連携）◎
第 7 回食育の基本と内容②（食育計画と評価）◎
第 8 回家庭・児童福祉施設における食事（児童福祉施設における食事と栄養と保護者への支援）◎
第 9 回特別な配慮を要する子どもの食と栄養①（体調不良時、疾患・障害のある子どもの対応）◎
　※食事支援ワークの持ち物：ゼリー等のとろみのある食品、飲み物、スプーン、お手拭き
第 10 回特別な配慮を要する子どもの食と栄養②（食物アレルギー児の対応）◎
　※持ち物：お菓子・レトルト等のパッケージ
第 11 回食育の基本と内容④（食育の発表準備 1）
第 12 回食育の基本と内容⑤（食育の発表準備 2）
第 13 回食育の基本と内容⑦（食育の発表 1）　1 グループ 15 分発表◇
第 14 回食育の基本と内容⑧（食育の発表 2）　1 グループ 15 分発表◇
第 15 回まとめ試験　まとめと振り返り

＜授業時間外学修＞
予習：教科書の該当箇所を読む　復習：資料等を見返し学びを整理する
その他：食育実践のためのグループワークでは、発表に向けて計画的に作業をすすめる

＜テキスト＞
森脇千夏著『イラスト　子どもの食と栄養』（東京教学社）　ISBN：978-4-8082-6060-6

＜参考書・参考資料＞
・保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
・楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針（厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長　雇児保発第 0329001 号平成 16 年 3 月 29 日）

＜成績評価＞
1.まとめ試験 20%、課題（◇）20%、発表 20%、理解度確認テスト（◎）40%を考慮して評価する。

＜備考＞
教科書を輪読しますので、必ず準備してください。

子どもの保健			遠藤由美子	
必修科目	講義	２単位	２年次	単独

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「(子どもの保健)」
担当教員の実務経験	看護師として小児科、救急救命センターに勤務。 相模原市保健予防課で子どもの予防接種と健診で看護師として勤務。

＜授業概要＞
保育における子どもの保健の位置づけを理解し、健康な子どもを中心に、成長とともに変化する身体と精神の発達を学ぶ。更に、子どもが罹りやすい病気の対応と予防、先天的疾患、感染症、事故の予測と予防、対応について学び、個々の子どもの健康状態や保健上の問題を判断し適切に対応できる基本的知識を得る。また、子供の保健に関する制度と現状・課題について考える。以上について学び、資格取得に必要な知識や技術の習得を目的とする。

＜授業の到達目標＞
子どもの身体的・精神的発達の維持・増進を図る実践活動を行うために、健康な子どもの健やかな成長を基礎として、観察の力を医療的視点で磨くための知識を習得する。また、母子保健制度、 児童福祉法等の制度によって成長が支えられていることを理解する。更に心を育むことの重要性を自己の成長の経験を活用しつつ、保育者としての役割を理解する。

＜授業方法＞
教科書、配布された資料に従い、学習を進める。必要に応じて、質問形式、発表形式、調べ作業、レポート作成を実施する。

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション　子どもの健康と保健の意義（生命の保持と母性・父性の育成、健康とは）（課題　１　）
第２回　健康の概念と健康指標（課題　２　）
第３回　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題（成果物）
第４回　地域における保健活動と子ども虐待防止（課題　３　）
第５回　身体発育及び運動機能の発達と保健（課題　４　）
第６回　生理機能の発達と保健　生理機能の発達①（呼吸器、循環器、免疫、消化器）　生理機能の発達②（尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能）　生理機能の発達③（睡眠、感覚、神経、精神、情緒、行動）（課題　５　）
第７回　健康状態把握及び心身の不調等の早期発見の重要性（課題　６　）
第８回　発育・発達の把握と健康診断（課題　７　）
第９回　保護者との情報共有（課題　８　）
第10回　子どもの主な疾病の特徴①先天異常（課題　９　）
第11回　子どもの主な疾病の特徴②循環器系・呼吸器系・血液・消化器（課題　１０　）
第12回　子どもの主な疾病の特徴③アレルギー・泌尿器系・内分泌代謝（課題　１１　）
第13回　子どもの主な疾病の特徴④脳・運動器・耳・眼・皮膚・歯の病気（課題　１２　）
第14回　子どもの主な疾病の特徴⑤感染症（　成果物　）
第15回　予防接種

＜授業時間外学修＞
授業１～１５において家庭学習（課題への取り組み：６０分、事前配布の資料の印刷や目を通すなどの準備、授業後プリントの完成と調べ作業等家庭学習へ取り組みクラスルームより提出）

＜テキスト＞
子どもの保健 谷田貝公昭監修、吉田直哉・糸井志津乃編著

＜教科書・参考資料＞
保育所保育指針解説平成２９年３月告示　厚生労働省

＜成績評価＞
学生に対する評価：①提出課題９６点（課題１～１２が各８点、ミニテスト含む）②成果物評価４点
＊授業を欠席した際には、その授業の課題は原則として評価対称とならない。提出は受け付ける。
＊課題は、毎授業で基本課される。
① ②を合計で１００点。８０点以上「優」、７０～７９点「良」、６０～６９点「可」、５９点以下「不可」とする。

＜備考＞
特になし

子どもの理解と援助			竹内　真悟	
必修科目	演習	１単位	２年次	単独
教員養成課程の区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目「幼児理解の理論及び方法」			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子どもの理解と援助」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
幼児が経験する「つまずき」の意味を理解するためには、集団と個の関係、背景にある家庭や地域とのつながり、発達や学びの過程への理解が欠かせない。保育現場における幼児理解の意義を理解し、心理と保育の視点から保育実践を考察し、記録し、共有する方法を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
（１）一般目標：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
到達目標：１）幼児理解の意義を理解している。
２）幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。
３）幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。
（２）一般目標：幼児理解の方法を具体的に理解する。
到達目標：１）観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
２）個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。
３）幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。
４）保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。

＜授業方法＞
・毎回テーマに沿った事例を提示し、グループワークを中心に意見共有や解説を行う。
・毎回授業内容に関して、考えたこと、学んだこと、実習や自分の経験から連想したこと、等を振り返りにまとめ、次回の授業で紹介することで、テーマの補足や展開を行う。
・授業の後半では、自分の経験した事例をもとに、全体で模擬ケースカンファレンスを行う。

＜授業計画＞
第１回：オリエンテーション：幼児理解の意義（１）-１）
第２回：子ども理解はなぜ大切か：気になる行動と幼児理解の方法（１）-１)、（１）-２）
第３回：幼児の愛着形成と他者の役割：安全基地と分離不安　（１）-２)、（１）-３）
第４回：幼児の認知発達と他者の役割：年齢による遊びの変化（１）-２)、（１）-３）
第５回：幼児を取り巻く世界の広がり：家族関係と援助資源（１）-３）（２）-２)、（２）-４）
第６回：幼児の「つまずき」の意味：子ども理解の様々な視点（１）-３)、（２）-３）
第７回：「つまずき」への対応１：共感的理解の視点から（１）-３)、（２）-３）
第８回：「つまずき」への対応２：客観的理解の視点から（２）-１)、（２）-２）（２）-３）
第９回：理解を深めるための振り返り１：保育場面の観察と記録（２）-１)、（２）-２）
第１０回：理解を深めるための振り返り２：PDCA と仮説検証（２）-１)、（２）-２）
第１１回：エピソードの捉え方（２）-３)、（２）-４）
第１２回：エピソードのまとめ方　（２）-１)、（２）-２）
第１３回：子ども理解を共有する１：ケースカンファレンスとは（２）-１)、（２）-２）
第１４回：子ども理解を共有する２：保護者対応と発表準備（２）-３)、（２）-４）
第１５回：子ども理解を共有する３：発表とまとめ（２）-３)、（２）-４）

＜授業時間外学修＞
事後学習（2 時間）…Google Form で振り返りを提出、事前学習（2 時間）…予習課題へ取り組む

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領(平成２９年３月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成２９年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)
保育所保育指針（平成２９年３月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
毎回の振り返り（30%)、小テスト（２0%）と最終試験（50%）によって評価する。

＜備考＞
特になし

子ども家庭支援の心理学			黒石　憲洋	
必修科目	講義	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「子ども家庭支援の心理学」			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
主な内容としては、①生涯発達の理論に基づいて各発達段階における発達課題と心理社会的危機について学修する。②家族・家庭の機能に関する社会学的理論に基づいてさまざまな家族・家庭の在り方について検討する。③家族・家庭の問題について因果的な理解を越えてシステム論的な視点からとらえ直しをおこなう。④子どものウェル・ビーイングに影響を与える家族・家庭を含めた社会環境要因を考察する。

＜授業の到達目標＞
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

＜授業方法＞
講義、グループ・ディスカッション、発表などを組み合わせておこなう。

＜授業計画＞
第 1 回：ガイダンスとイントロダクション：講義の概要、子ども家庭支援の心理学で学ぶこと
第 2 回：発達とは：生涯を通じた変化、各発達段階における発達課題と危機
第 3 回：生涯発達（1)：乳幼児期から幼児期にかけての発達
第 4 回：生涯発達（2)：児童期から思春期・青年期にかけての発達
第 5 回：生涯発達（3)：成人期から高齢期にかけての発達
第 6 回：道徳性の発達
第 7 回：対人関係の発達
第 8 回：　集団機能の社会学的理解
第 9 回：　家族・家庭の在り方を考える
第 10 回：システム論とは
第 11 回：家族・家庭のシステム論的理解
第 12 回：家族・家庭の発達
第 13 回：子どもの生活・生育環境としての家族・家庭：虐待・ネグレクト等
第 14 回：子どものウェル・ビーイングを考える
第 15 回：まとめと定期試験

＜授業時間外学修＞
事後学修として、授業ノートを整理し、内容の確認をおこなう。前回の授業内容は、次回までにしっかりと理解しておくこと。不明な点については、自主学習や受講生間の協同学習、教員への質問などにより必ず解消しておくこと。

＜テキスト＞
テキストは特に使用しない。必要に応じて講義中に資料を配付する。

＜参考資料＞
吉川悟(編)　(1999).　システム論からみた学校臨床　金剛出版

＜成績評価＞
授業内で実施する期末試験において、合格点（100 点満点中、60 点以上）を満たせば、単位を認定する。

＜備考＞
特になし

子ども家庭支援論			富田　貴代	
必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭支援論」
担当教員の実務経験	児童相談所内一時保護所（保育士として入所児童の支援）勤務

＜授業概要＞現代の社会的状況や家庭環境の変化を踏まえ、子育て家庭への支援とは何か、その必要性、意義、目的、機能、方法等について保育士の専門性を生かした役割や求められる基本的態度、力量を持つことを学び、子ども家庭支援を捉え考察を深める。

＜授業の到達目標＞・子育て家庭に対する支援の意義、目的を理解する。・保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
・子育て家庭のニーズに応じた多数の支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題を理解する。

＜授業方法＞テキストに沿った講義を中心に行う。関連映像の視聴。

＜授業計画＞
第 1 回　オリエンテーション（授業内容、15 回の流れ、評価）、子ども家庭支援とは
第 2 回　子ども家庭支援の意義と役割、目的と機能
第 3 回　子ども家庭支援における保育所の機能と保育士の役割①保育の専門性を生かした子ども家　庭支援
第 4 回　〃　②子どもの育ちの喜びの共有、保護者との相互理解
第 5 回　〃　③保護者及び地域の子育てを自ら実践する支援
第 6 回　〃　④保育士に求められる基本的態度
第 7 回　〃　⑤家庭の状況に応じた支援
第 8 回　地域の資源の活用、自治体・関係機関との連携、協力
第 9 回　子育て支援に関わる社会資源、子育て支援施策・次世代育成支援施策
第 10 回　多様な家庭とその支援①支援の内容と対象
第 11 回　〃　②保育所等を利用する子どもの家庭支援
第 12 回　〃　③地域の子育て家庭への支援
第 13 回　〃　④要保護児童等及びその家庭に対する支援
第 14 回　〃　⑤子ども家庭支援に関する現状と課題
第 15 回　授業の振り返りと期末試験

＜授業時間外学修＞
テキストをもとに予習することを薦める。事後学習として、授業ノートや配布資料を整理し、内容確認を行い理解しておくこと。

＜テキスト＞
守巧編『子ども家庭支援論　保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす』第 2 版　萌文書林、2025 年。

＜参考書・参考資料＞
『最新　保育士養成講座　第 10 巻　子ども家庭支援』全国社会福祉協議会
　保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
期末試験（50%）　レポート（30%）　授業態度（20%）

＜備考＞
特になし。

子ども家庭福祉			蠣﨑　尚美	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「子ども家庭福祉」			
担当教員の実務経験	乳児家庭全戸訪問事業（厚生労働省）にて訪問員として勤務 地域包括支援センターにて社会福祉士（非常勤）として勤務			

＜授業概要＞
現代の子どもの育つ環境の実態について子ども家庭福祉の視点から具体的に学ぶことを通し、保育者としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。児童の権利に関する条約や子どもの権利擁護、保育者の専門性と役割について理解を深める。

＜授業の到達目標＞
1　子ども家庭福祉についての基本的理念について学ぶ。
2　子ども家庭福祉施策及びとりまく諸状況の変化について説明できる。
3　子ども家庭福祉に関わる社会の仕組みや法律・制度について体系的に学び、説明できる。

＜授業方法＞
本科目では、講義による解説を中心とし、関連する視聴教材も取り入れる。授業毎に所定の課題に取り組み、それに基づいた授業となる。毎回の授業ではリアクションペーパーを記入し、授業内容理解の確認を把握するので積極的に活用することを求める。グループワーク、調べ学習を行うこともある。

＜授業計画＞
第１回：子ども家庭福祉の理念と概念
第２回：子どもの権利保障
第３回：子ども家庭福祉の歴史的変遷、諸外国の動向（及び 208 頁からの海外の子育て支援）
第４回：子ども家庭福祉の歴史的変遷、日本国内
第５回：児童福祉法の成立と改正
第６回：子ども関連の法律
第７回：子ども家庭福祉にかかわる機関と施設
第８回：子ども家庭福祉分野で働く専門職
第９回：少子化と子育て家庭へのサービス
第１０回：母子保健と子どもの健全育成
第１１回：子育て支援と子どもに関する諸問題・地域の子育てサービス
第１２回：子ども福祉サービスの実際／児童虐待・DV・障害児
第１３回：子ども福祉サービスの実際／子どもの貧困と対策（子ども食堂）
第１４回：地域における連携・協働とネットワーク
第１５回：ふりかえりと試験

＜授業時間外学修＞
【事後学習】授業内容を読み返し、疑問や課題を整理する。
【次回事前学習】教科書を読み理解しておく。

＜テキスト＞
『図解で学ぶ　子ども家庭福祉』直島正樹・河野清志編著　萌文書林

＜参考書・参考資料＞
保育所保育指針（平成２９年３月告示 厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞
期末試験（レポート含む）100%そのうち 60 点以上で単位を認定する。

＜備考＞

子育て支援			小林　根	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「子育て支援」
担当教員の実務経験	介護施設にて社会福祉士として勤務

＜授業概要＞

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。

＜授業の到達目標＞

保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

＜授業方法＞

授業回数ごとに割り当てられたテーマに沿ってテキスト内の実践事例を読み解き、子育て支援に必要な基本姿勢や専門的知識・技術を学ぶ。パワーポイントを活用し、授業を進めながらワークシートを完成させ、授業後半で提出してもらう。ワークシートの内容を評価し、学習の進捗状況を確認する。

＜授業計画＞

第１回：　子育て支援とは
第２回：　子育て支援の意義
第３回：　子育て支援の基本的価値・倫理
第４回：　子育て支援の基本姿勢
第５回：　子育て支援の基本的技術
第６回：　園内・園外との連携と社会資源
第７回：　記録・評価・研修
第８回：　日常会話を活用した子育て支援
第９回：　文章を活用した子育て支援
第１０回：　行事などを活用した子育て支援
第１１回：　環境を活用した子育て支援
第１２回：　地域子育て支援拠点における支援
第１３回：　入所施設における子育て支援
第１４回：　通所施設における子育て支援
第１５回：　まとめと今後の課題（テスト）

＜授業時間外学修＞

授業後半に次回授業の予告を行い、テキストの実践事例について次回までに読んでおくよう指導する。

＜テキスト＞

子育て支援（15のストーリーで学ぶワークブック）萌文書林

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領

＜成績評価＞

各授業毎の演習ワークシート提出70%、テスト30%

＜備考＞

特になし

社会的養護Ａ			蠣﨑　尚美	
必修科目	講義	２単位	１年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「社会的養護Ⅰ」			
担当教員の実務経験	乳児家庭全戸訪問事業（厚生労働省）にて訪問員として勤務 地域包括支援センターにて社会福祉士（非常勤）として勤務			

＜授業概要＞
本科目では、児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえ、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について、理解することを目指す。

＜授業の到達目標＞
1.子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、説明することができる。
２．社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。
３．社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解し、説明することができる。
4・ 家庭養護について理解し、説明することができる。

＜授業方法＞
本科目は、講義を中心に行い、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について学習する。また、子どもの権利擁護については、グループワークや調べ学習を取り入れ授業を行う。

＜授業計画＞
第１回：オリエンテーション 社会的養護の理念と概念
第２回：現代社会と児童福祉、社会的養護の基本原則
第３回：権利主体としての児童（子どもの人権擁護）
第４回：社会的養護の歴史
第５回：児童養護の体系（施設、里親、グループホーム等）
第６回：社会的養護の制度と法体系
第７回：施設養護と家庭養護
第８回：施設養護の基本原理 子どもの最善の利益
第９回：施設養護の実際 施設の日常生活、自立支援 ビデオ視聴
第１０回：施設養護の実際 治療的・支援的援助 ビデオ視聴
第１１回：社会的養護に関わる専門職（児童相談所、関係機関、家庭等）
第１２回：被措置等の虐待防止
第１３回：社会的養護における保育士等の倫理と責務
第１４回：社会的養護と地域福祉 ビデオ視聴
第１５回：社会的養護の目指す方向

＜授業時間外学修＞
【事後学習】授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。

【事前学習】教科書該当箇所を読み、考察を行う。

＜テキスト＞
図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ（第２版）原田旬哉・杉山宗尚 編著 萌文書林

＜参考書・参考資料＞
保育所保育指針（平成２９年３月告示 厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞
期末試験（レポート含む）100%そのうち 60 点以上で単位を認定する。

＜備考＞

社会的養護Ｂ			佐々木　玄	
必修科目	演習	１単位	２年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「社会的養護Ｂ」			
担当教員の実務経験	児童養護施設にCW、FSW、自立支援担当、統括主任として勤務			

＜授業概要＞
本科目は、社会的養護Ａの内容を理解した上で、具体的に社会的養護を担う施設のあり方や社会的養護全体について理解する。

＜授業の到達目標＞
１．社会的養護及び施設養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
２．社会的養護における援助、支援方法、知識などについて理解する。
３．社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する。
４．社会的養護における子ども虐待の防止と家族支援について理解する。

＜授業方法＞
講義、個人ワーク、グループワーク、ロールプレイ、参加型学習

＜授業計画＞
第１回　オリエンテーション、アイスブレイク、社会的養護の
第２回　社会的養護における子どもの理解
第３回　社会的養護の内容①日常生活支援、家庭養護の生活特性と実際
第４回　社会的養護の内容②心理的支援、自立支援
第５回　社会的養護の内容③乳児院、障害児施設など
第６回　社会的養護における子ども性暴力防止法について
第７回　社会的養護における性の支援の考え方①
第８回　社会的養護における性の支援の考え方②
第９回　社会的養護における性の支援の考え方③
第10回　社会的養護における記録について（アセスメント、個別支援計画の作成）
第11回　社会的養護におけるチーム連携、保育の専門性にかかわる知識・技術とその実際
第12回　社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実際
第13回　社会的養護におけるソーシャルワーク
第14回　社会的養護に家庭支援
第15回　今後の社会的養護の課題と展望、試験

＜授業時間外学修＞
【事後学習】授業を通して、何が理解できたか、自分ならどう活かしていけるかをまとめる。
わからない専門用語を調べておく。

＜テキスト＞
なし

＜参考書・参考資料＞
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
小テスト　40%　　期末試験　60%

＜備考＞
演習科目です。積極的に参加をしてください。

社会福祉			亀田 良克	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「社会福祉」			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
社会福祉の意義、理念、歴史、制度、体系等の社会福祉の基礎を学ぶ。また、子ども家庭支援の視点を身につけるとともに、相談援助の理論や方法等の学習を通して福祉サービス利用者を適切かつ円滑に支援する態度や行動の基礎を培う。さらに、学んだ知識や技術を土台にして、さまざまな社会福祉が抱える問題や諸課題について考察する。

＜授業の到達目標＞
・現代社会における社会福祉の意義、歴史ならびに子ども家庭支援の視点について理解する。
・社会福祉制度及びその実施体系について理解する。
・社会福祉における相談援助について理解する。
・社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。
・社会福祉の動向と今後の課題について考究できる姿勢を構築する。

＜授業方法＞
講義を中心に進めていきますが、個人ワークやグループディスカッション、前後左右の受講者同志による討議等も実施します。また、適宜視聴覚教材も使用します。幅広い視点や知識の獲得を目指して積極的に参加しましょう。

＜授業計画＞
第1 回 イントロダクション（「社会福祉」で何を学ぶのか、授業の流れと評価）
第2 回 社会福祉の理念と歴史的変遷
第3 回 子ども家庭支援と社会福祉
第4 回 社会福祉の制度と法体系
第5 回 社会福祉の実施機関と社会福祉施設
第6 回 社会福祉にかかわるさまざまな専門職
第7 回 社会保障および関連制度の概要
第8 回 相談援助の意義と機能
第9 回 相談援助の理論と方法
第10 回 相談援助の対象と過程
第11 回 社会福祉における利用者保護の仕組み
第12 回 社会福祉の現代的課題（少子高齢社会における子育て支援）
第13 回 社会福祉の現代的課題（共生社会の実現と障害者施策など）
第14 回 諸外国の社会福祉の動向
第 15 回 まとめと試験

＜授業時間外学修＞
毎授業終了時に次回の講義内容をお伝えします。テキストの該当箇所を事前に読むなどして次回の授業に臨んで下さい。授業後には、配布資料等でポイントをまとめる等して試験に備えておきましょう。

＜テキスト＞
「社会福祉 新・基本保育シリーズ④」監修 公益社団法人 児童育成協会、 松原康雄・朴洋一・金子充編、中央法規出版、2019

＜参考書・参考資料＞
保育所保育指針（平成29 年3 月告示 厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
授業内試験80点および授業の振り返り20 点の計100 点満点のうち60 点以上で単位を認定する。

＜備考＞

情報機器の操作 A			脇 みどり	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	「情報機器の操作」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
保育士・幼稚園教諭業務に必要な基本的 PC スキルを身につけます。園だよりなど業務で想定される課題作成を通し,文書作成（Word）,数値処理（Excel）,プレゼンテーション（PowerPoint）の基本スキルを習得します。保育者として知っておきたい「情報リテラシー」の基本を学習します。

＜授業の到達目標＞
Word：文章作成、編集に関する基本スキルの習得
Power Point：ポスターやしおりなど印刷資料作成に関する基本スキルの習得
情報リテラシー：情報セキュリティと Web アプリの利活用,情報デザイン

＜授業方法＞
テーマに沿った課題を PC の操作をしながら学習し成果物として提出します。

＜授業計画＞
第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　PC 基本操作　Office ソフト説明
第 3 回　Word：基本機能の確認と操作
第 4 回　Word：文書の作成
第 5 回　Word：表の作成
第 6 回　Word：文書の編集
第 7 回　Word：表現力をアップする
第 8 回　Word：課題演習「園だより」の作成
第 9 回　情報リテラシー：情報セキュリティ（Web アプリとデータの適切な管理）
第 10 回　PowerPoint：基本機能の確認と操作
第 11 回　PowerPoint：図やオブジェクトの挿入と編集
第 12 回　PowerPoint：　「園のお祭りポスター」の作成
第 13 回　情報リテラシー：情報をデザインする
第 14 回　PowerPoint：課題演習「遠足のしおり」の作成
第 15 回　学習の振り返り

＜授業時間外学修＞
教科書や資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。

＜テキスト＞
杉本くみ子・大澤栄子（2026）『30 時間アカデミック Office2024』実教出版
（USB メモリ等データ保存用デバイス（8GB 以上）の準備を推奨します。初回は不要です。）

＜参考書・参考資料＞
阿部正平ほか（2025）『保育者のためのパソコン講座』萌文書林　他は必要に応じ随時紹介します。

＜成績評価＞
最終成果物（課題演習）の評価　60%　授業への参加度 40%（授業内の小課題やアンケート提出）

＜備考＞
特になし

情報機器の操作 B			脇 みどり	
必修科目	演習	1 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	「情報機器の操作」			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験	－			

＜授業概要＞
保育士・幼稚園教諭業務に必要な基本的 PC スキルを身につけます。園だよりなど業務で想定される課題作成を通し,文書作成（Word）,数値処理（Excel）,プレゼンテーション（PowerPoint）の基本スキルを習得します。保育者として知っておきたい「情報リテラシー」の基本を学習します。

＜授業の到達目標＞
Power Point：プレゼンテーション資料作成・発表に関する基本スキルの習得
Excel：データ記録、分析に関する基本スキルの習得
情報リテラシー：プレゼンテーションの基本技能、グラフやデータの読み取りと活用

＜授業方法＞
テーマに沿った課題を PC の操作をしながら学習し成果物として提出します。

＜授業計画＞
第 1 回　PowerPoint：図表・グラフ・表の挿入と編集
第 2 回　PowerPoint：特殊効果の設定
第 3 回　PowerPoint：スライドショーをサポートする機能
第 4 回　PowerPoint：「実習園の紹介（プレゼン資料)」の作成
第 5 回　情報リテラシー：プレゼンテーションの基本技能
第 6 回　Excel：基本機能の確認と操作
第 7 回　Excel：表の作成
第 8 回　Excel：相対参照と絶対参照
第 9 回　Excel：いろいろな関数
第 10 回　Excel：グラフと図形
第 11 回　情報リテラシー：グラフの活用と読み取り
第 12 回　Excel：データベースの利用
第 13 回　情報リテラシー：データ分析・読解の基礎
第 14 回　Excel：課題演習「園児名簿」の作成
第 15 回　学習の振り返りとまとめ

＜授業時間外学修＞
教科書や資料をよく読み内容の理解に努めてください。課題は仕様をよく確認して作業してください。

＜テキスト＞
杉本くみ子・大澤栄子（2026)『30 時間アカデミック Office2024』実教出版
（USB メモリ等データ保存用デバイス（8GB 以上）の準備を推奨します。初回は不要です。）

＜参考書・参考資料＞
阿部正平ほか（2025)『保育者のためのパソコン講座』萌文書林　他は必要に応じ随時紹介します。

＜成績評価＞
最終成果物（課題演習）の評価　60%　授業への参加度 40%（授業内の小課題やアンケート提出)

＜備考＞
特になし

人間関係			門倉　洋輔	
必修科目	演習	1単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導方法に関する科目「保育内容の指導方法(情報機器及び教材の活用を含む)」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	公立学童保育施設にて学童保育指導員として勤務			

＜授業概要＞

領域「人間関係」を理解するための基礎知識を身につけることを重視し、社会学、発達心理学、哲学、生態学などの理論をベースに授業を展開する。

また、実際のエピソードや保育記録、連絡ノート、ソシオグラム、エクササイズを用いて考察を行う。

＜授業の到達目標＞

・乳幼児期の特性を踏まえ、領域「人間関係」の意義、ねらい、内容を理解する。

・保育者の援助について、実践事例を通して理解する。

・子どもの人間関係に関する知識、指導技術を獲得し、幼児教育・保育の場で応用することができる。

＜授業方法＞

講義を主軸として、グループディスカッションや動画視聴などを交えながら授業を行う。

＜授業計画＞

第1回　イントロダクション

第2回　自己理解

第3回　現代社会に生きる子ども

第4回　領域「人間関係」における理論① 心理性的発達理論

第5回　領域「人間関係」における理論② ライフサイクル論

第6回　演習

第7回　0歳児の発達

第8回　1～2歳児の発達

第9回　3～5歳児の発達

第10回　子育て支援における人との関わり

第11回　領域「人間関係」における理論③ パーテンのあそびの分類

第12回　領域「人間関係」における理論④ 生態学的システム論

第13回　子どもの権利・まとめ

第14回　演習

第15回　総括・試験

＜授業時間外学修＞

学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。

＜テキスト＞

特になし

＜教科書・参考資料＞

適宜、資料を配布する。

＜成績評価＞ 期末試験（50%）、レポート（25%）、小テスト（25%）
＜備考＞ レポート・小テストは、学習の進捗状況により適宜実施する。

体育講義			渡辺潤一	
必修科目	講義	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	「体育」			
保育士養成課程の区分	教養科目「体育」			
担当教員の実務経験	専門学校・短期大学等において、レクリエーション（体育実技を含む）科目の担当教員として勤務			

＜授業概要＞
・幼児期運動指針、子どもの保健体育の説明・解説を中心に展開する。

＜授業の到達目標＞
・保育現場での適切な運動についての指導・援助法を幼児期運動指針に基づいて理解する。
・子どもの保健・応急手当についての知識を習得する。
・学生自身の健康観について理解を深める機会とする。

＜授業方法＞
・講義を中心に授業を進めながら視聴覚教材の活用も試みる。

＜授業計画＞
第1回　幼児期運動指針
第2回　幼児期運動指針
第3回　幼児期運動指針
第4回　幼児期運動指針
第5回　子どもの応急手当
第6回　子どもの応急手当
第7回　子ども保健体育
第8回　子どもの保健体育
第9回　子どもの保健体育
第10回　子どもの保健体育
第11回　体育理論
第12回　体育理論
第13回　体育理論
第14回　障がいのある方のスポーツ
第15回　期末試験・授業総括

＜授業時間外学修＞
・授業復讐

＜テキスト＞
・特になし

＜参考書・参考資料＞
・適宜資料を配布

＜成績評価＞
・筆記試験またはレポート課題で評価

＜備考＞

体育実技			小川佳代子	
必修科目	実技	1単位	1年次	単独

教員養成課程の区分	体育
保育士養成課程の区分	教養科目「体育」
担当教員の実務経験	女子美術大学・相模女子大学にて非常勤講師として勤務 呉共済病院にて健康運動指導士として勤務 目黒区学校教育員会にて健康教育推進支援員として勤務

＜授業概要＞

仲間とコミュニケーションを図りながらスポーツを楽しむことで、心身の調子を整える。また、スポーツを生涯楽しむことができるよう基礎技術・ルール・安全に行うための方法などを学ぶ。

＜授業の到達目標＞

以下の知識・能力を習得することを目標とする。

①仲間とコミュニケーションを図り、共感力を高め、スポーツを楽しむことができる。

②授業内で実施するスポーツの基礎技術・ルール・審判方法を身につけ、仲間とゲームができる。

③スポーツを安全に行うための方法がわかる。

＜授業方法＞

対面での実技（アリーナ）

＜授業計画＞

第1回 ガイダンス　身体機能チェック

：授業内容の説明や注意事項、評価方法について説明する。また、簡単な身体機能チェックで自身の身体状況を把握し、改善策を考える。

第2回 レクリエーションスポーツ①

：身近なものを使ったレクリエーションゲームで身体を動かし、仲間とコミュニケーションを図る。また、運動時における水分補給の方法を学ぶ。

第3回 レクリエーションスポーツ②

：ボールを使ったレクリエーションゲームを楽しむ。また、スポーツを安全に行うためのウォーミングアップやクールダウンの方法を学ぶ。

第4回 Cボール：ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールをキャッチする感覚を養う。

第5回 バスケットボール①：ドリブル・パスなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。

第6回 バスケットボール②：シュートの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。

第7回 バスケットボール③：ルール・審判方法を学び、仲間とゲームを楽しむ。

第8回 バスケットボール④：大会形式の方法を学び、仲間とゲームを楽しむ。

第9回 ドッチボール：さまざまなルールのドッチボールを学び、仲間と楽しむ。

第10回 プレルボール：ルールを学びゲームを楽しみながら、ボールをつなぐ技術を養う。

第11回 バレーボール①：サーブ・オーバーハンドなどの基礎技術を習得し、簡易ゲームを楽しむ。

第12回 バレーボール②：ルール・審判方法を学び、仲間とゲームを楽しむ。

第13回 バレーボール③：仲間と戦術を考えながら、ゲームを楽しむ。

第14回 バレーボール④：大会形式の方法を学び、仲間とゲームを楽しむ。

第15回 リクエストスポーツ：授業で実施したスポーツのなかで、リクエストが多かったスポーツを仲間と楽しむ。

※授業参加人数や授業進度により若干計画を変更する場合あり

＜授業時間外学修＞
予習（取組時間の目安：5～15 分/コマ）
・授業で実施するスポーツについて、情報を収集する。

復習（取組時間の目安：5～15 分/日）
・授業内で紹介するエクササイズや生活習慣等の改善を日々実践し、身体機能の向上を目指す。

＜テキスト＞
必要に応じて、授業内で提示・配布する。

＜教科書・参考資料＞
必要に応じて、授業内で提示・配布する。

＜成績評価＞
受講態度及び積極性 60%、授業外で取り組み 30%、課題 10%
【受講態度及び積極性】
・授業に臨む姿勢：時間厳守、体調管理、服装や靴、忘れ物など。
・授業時の様子：得て不得手に関係なく積極的に運動に取り組む様子や仲間とコミュニケーションを図りながら活動を楽しもうとする姿勢。
【授業外での取り組み】
・良好な生活行動の実践で体調を整え、授業に参加することができたか。
【課題】
・授業内に課すアンケートやワークシートの提出とその内容。
※フィードバックは、授業内での講評や個別に回答を行う。

＜備考＞
・自身の健康状態や体調を確認して参加すること。
・学校規程のジャージ、室内用運動靴を着用すること。
・アクセサリー類（ネックレス・ピアス・長い髪は束ねる）や長い爪は安全面を考慮して NG とする。
・水分補給用のドリンク、タオルは適時準備すること。
・授業時間内の携帯電話の使用は認めない（緊急の場合は申し出ること）。
・遅刻してきた際は、必ず担当教諭の指示を得てから授業に参加すること。
（ウォーミングアップ不足などで怪我をする恐れあり）
・授業中にアリーナを出入りする場合は、必ず許可を得ること（安全管理のため）。

特別支援教育 A			村山　小百合	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「障害児保育」			
担当教員の実務経験	神奈川県立、東京都立、国立、横浜市立特別支援学校にて教員として勤務 横浜市教育委員会事務局にて主任指導主事として勤務 横浜市立特別支援学校にて校長として勤務			

＜授業概要＞
A では、基礎基本的な学びを展開　　B では、その学びを活かした応用的な内容を展開し深める。
本授業では、特別支援教育の理念・制度・歴史、障害等について学ぶ。また、教育・保育現場での様々なニーズに対応するため、アセスメント、支援計画等について学び、具体的な支援方法に繋げていく。さらに、家庭や関係機関等との連携について学び、「支援」について具体的に理解すると共に深め、特別な支援の複合的な対応について深める。

＜授業の到達目標＞
１．特別の教育的ニーズのある子どもについて理解する。
２．障害はないが、特別の教育的ニーズのある子どもに対する基本的な支援や保育、指導のあり方、方法を理解する。
３．特別支援教育の理念と仕組、制度、歴史について理解する。
４．関係機関、保護者との連携について学び、「相談する」「繋ぐ」等について理解する。

＜授業方法＞
１．前時の復習　　２．講義　（一例）　授業では、各回のテーマについて調べグループで討議してまとめ、全体で発表する、ICT 等も随時活用し、保育者としてどう対応するのかについて自ら考えると共に、その考えを仲間と共有してより良い学びに繋げる。　　３．各授業では、ノートに重要事項を記入し、更に振り返り（リアクションペーパー）知識の定着を図る。

＜授業計画＞
第 1 回　オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの実際（特別支援教育の理念）
第 2 回　インクルーシブ教育システムの実際（特別支援教育の歴史と現状）
第 3 回　特別支援教育の仕組 1 (早期からの相談と障害の受容)
第 4 回　特別支援教育の仕組 2（個別の教育支援計画と個別の指導計画）
第 5 回 特別支援教育の取組（特別支援教育コーディネーターと家庭・関係機関等との連携）
第 6 回　知的障害の理解と支援
第 7 回　肢体不自由の理解と支援
第 8 回　重度・重複障害、身体虚弱の理解と支援
第 9 回 視覚障害、聴覚障害の理解と支援
第 10 回　発達障害の理解と支援（発達障害、学習障害）
第 11 回　発達障害の理解と支援（注意欠陥多動症：ADHD）
第 12 回　発達障害の理解と支援（自閉スペクトラム症：ASD）
第 13 回 発達障害の理解と支援（情緒障害、言語障害、不登校、虐待）
第 14 回 特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援及び関係機関との連携・協働
第 15 回 まとめ　確認テスト

＜授業時間外学修＞
授業前には、図書、インターネット等を活用して自分で特別支援教育、課題等について調べ、まとめる。授業では、グループワークを行いその考えを共有し、仲間とまとめ全体で発表すること等を通して、主体的で対話的な学びを展開する。授業後は、毎回の学びや課題についてまとめ、知識を定着させる。

＜テキスト＞
改訂版　特別支援教育のテキスト　～気付き、工夫して、つなげる～　　学研　小林倫代編・著

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領（平成３０年）　特別支援学校幼稚部教育要領（平成３０年）
障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導（令和５年３月）文部科学省　厚生労働省 内閣府

＜成績評価＞
授業態度、参加の積極性　授業内課題と振り返り７0%　　確認テスト　３０％

＜備考＞
特になし

特別支援教育Ｂ			村山　小百合	
必修科目	演習	１単位	１年次	単独

教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「特別支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「障碍児保育」
担当教員の実務経験	神奈川県立、東京都立、国立、横浜市立特別支援学校にて教員として勤務 横浜市教育委員会事務局にて主任指導主事として勤務 横浜市立特別支援学校にて校長として勤務

＜授業概要＞
Ａでは、基礎基本的な学びを展開　　Ｂでは、その学びを活かした応用的な内容を展開し深める。
本授業では、Ａで学んだ特別支援教育の理念・制度・歴史、障害等について振り返りその意義を確認する。教育・保育現場での様々なニーズに対応するため、支援計画等を作成し、具体的な支援方法に繋げていく。さらに、特別支援教育について深めるため、インクルーシブスポーツや少しの工夫でできる活動を考え展開し、現場での具体的な「支援」について深める。

＜授業の到達目標＞
１．特別の教育的ニーズのある子どもについて理解する。
２．障害はないが、特別の教育的ニーズのある子どもに対する基本的な支援や保育、指導のあり方、方法を理解する。
３．特別支援教育の理念と仕組、制度、歴史について理解する。
４．関係機関、保護者との連携について学び、「相談する」「繋ぐ」等について理解する。

＜授業方法＞
１．前時の復習　　２．講義　（一例）　授業では、各回のテーマについて調べグループで討議してまとめ、全体で発表する、ICT 等も随時活用し、保育者としてどう対応するのかについて自ら考えると共に、その考えを仲間と共有してより良い学びに繋げる。　　３．各授業では、ノートに重要事項を記入し、更に振り返る（リアクションペーパー）ことで知識の定着を図る。

＜授業計画＞
第１回オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの実際（障害のある幼児などへの指導における基本的な考え方）
第２回　インクルーシブ教育システムの実際（特別支援教育の歴史と現状、合理的配慮）
第３回　共生社会とインクルーシブスポーツ
第４回　特別支援教育の体制整備の実際（個別の教育支援計画と個別の指導計画　保護者との信頼関係のために）
第５回　知的障害の理解と支援の実際
第６回　肢体不自由の理解と支援の実際とケーススタディ
第７回　身体に障害等がある子どもの支援の実際（車椅子乗車、介助体験等）
第８回　重度・重複障害、身体虚弱の理解と支援の実際
第９回　視覚障害、聴覚障害の理解と支援の実際とケーススタディ
第 10 回　発達障害の理解と支援の実際
第 11 回　発達障害の理解と支援（注意欠陥多動症：ADHD）　の実際とケーススタディ
第 12 回　発達障害の理解と支援（自閉スペクトラム症：ASD）　の実際とケーススタディ
第 13 回　特別の教育的ニーズのあるこどもの理解と支援の実際と連携、協働（幼保小連携等）
第 14 回　レポート課題
第 15 回　少しの工夫でできる特別な支援（ゲームや日頃の活動から）

＜授業時間外学修＞
授業前には、図書、インターネット等で特別支援教育、課題等について自分で調べ、考えをまとめる。
授業では、グループワークを行い自分の考えを共有し、仲間とまとめ全体で発表すること等を通して、主体的で対話的な学びを展開する。授業後は、毎回の学びや課題についてまとめ、知識を定着し、深める。

＜テキスト＞
改訂版　特別支援教育のテキスト　～気付き、工夫して、つなげる～　　学研　小林倫代編・著

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領（平成３０年）　特別支援学校幼稚部教育要領（平成３０年）
障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導（令和５年３月）文部科学省　厚生労働省 内閣府

＜成績評価＞
授業態度、参加の積極性　授業内課題と振り返り　（リアクションペーパー）７０％、　レポート課題　３０％

＜備考＞
特になし

日本国憲法			宮田史彦	
必修科目	講義	2 単位	1 年	単独

教員養成課程の区分	日本国憲法
保育士養成課程の区分	教養科目「外国語、体育以外の科目」
担当教員の実務経験	公立高校にて社会科（地歴公民科）教諭として勤務

＜授業概要＞

日本国憲法の成立とその理念について概説し，基本的人権の特性や問題点について，条文の解釈に触れながら社会生活で生じている事象や判例を通じて検証する。また，人権保障のための統治機構の機能や平和主義を基調とする安全保障について考察する。

＜授業の到達目標＞

日本国憲法を学ぶことで人権感覚を養い，他への思いやりと奉仕の精神をもって保育・幼児教育の実践にあたるとともに，社会におけるさまざまな事象に対して自分の考えをもち，他と協力して生きていく力を身につける。

＜授業方法＞

講義

＜授業計画＞

第 1 回　憲法と立憲主義：法体系と憲法の位置づけ，立憲主義の意義について
第 2 回　日本国憲法の成立過程と基本原理：大日本帝国憲法（明治憲法）と日本国憲法
第 3 回　基本的人権の原理：人権の主体と人権の諸形式
第 4 回　幸福追求権と自己決定権：憲法第 13 条と新しい人権
第 5 回　法の下の平等：憲法第 14 条をめぐる判例からみる課題
第 6 回　自由権Ⅰ：思想・良心の自由，信教の自由
第 7 回　自由権Ⅱ：自由に学び，表現する権利
第 8 回　自由権Ⅲ：経済活動の自由
第 9 回　社会権Ⅰ：生存権をめぐる問題
第 10 回　社会権Ⅱ：教育を受ける権利，労働者の権利
第 11 回　統治機構Ⅰ：国を治める仕組み（国会と選挙制度）
第 12 回　統治機構Ⅱ：国を治める仕組み（内閣と地方自治）
第 13 回　統治機構Ⅲ：国を治める仕組み（裁判所の役割と裁判員制度）
第 14 回　平和主義と国を守ること：安全保障とは何か
第 15 回　講義の振り返り，試験とまとめ

＜授業時間外学修＞

各講義後の課題レポートを期限まで提出する。（授業の振り返りと理解の確認）

＜テキスト＞

・橋本勇人　編『保育と日本国憲法（改訂版）』（みらい社）

＜教科書・参考資料＞

・幼稚園教育要領（平成 30 年 3 月告示　文部科学省）
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 30 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
・保育所保育指針（平成 30 年 3 月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞

・期末試験：70%
・各授業で提示する課題レポート：30%

＜備考＞

特になし

乳児保育 A			清水かおり	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	保育内容・方法に関する科目「乳児保育Ⅰ」
担当教員の実務経験	公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務

＜授業概要＞
0～2 歳児の保育について、専門的知識の習得を目的とする。「子どもの最善の利益」を主軸として、保育理論を実践例と照合しながら 3 歳未満児の保育の基本を学ぶ。特に発達については、発達に応じた保育を実践できるよう丁寧に理解を深める。また、0～2 歳児を担当する保育士として求められる資質および能力の育成を目指す。

＜授業の到達目標＞
1. 乳児期の発達の特徴について具体的に説明できる。
2. 乳児保育における基本的な関わりについて理解し、適切な対応を考えることができる。
3. 生活援助や遊びの意義を理解し、実践に活かすことができる。
4. 安全管理および保護者支援の基礎を理解し、具体的な場面を想定して対応を考えることができる。

＜授業方法＞
講義、映像資料、事例検討、グループワーク等を通して理解を深める。

＜授業計画＞
第 1 回　オリエンテーション、乳児保育の意義・目的および役割
第 2 回　乳児の生活と遊びの基本的事項
第 3 回　保育所・認定こども園における乳児保育
第 4 回　保育所・認定こども園以外の乳児保育
第 5 回　3 歳未満児の子どもの発達と特徴
第 6 回　3 歳未満児の身体の発達
第 7 回　3 歳未満児の言葉と社会性の発達
第 8 回　0 歳児の保育内容
第 9 回　1 歳以上 3 歳未満児の保育内容
第 10 回　3 歳未満児の環境構成
第 11 回　乳児保育における子育て支援
第 12 回　乳児保育の計画・記録・評価
第 13 回　乳児保育における保育者間の連携
第 14 回　乳児保育における保護者との連携
第 15 回　乳児の発達理解および育ちを支える保育者の役割に関するまとめと振り返り

＜授業時間外学修＞
テキストの該当箇所の読解や課題・復習事項に取り組むこと。また、日常生活の中で 3 歳未満児に関心をもち、観察やニュース等を通して得た内容について考察を深めること。

＜テキスト＞
乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新 基本保育シリーズ⑮　児童育成協会監修　中央法規出版

＜参考書・参考資料＞
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
定期試験 50%、課題提出 50%

＜備考＞
特になし

乳児保育 B			関根 久美	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育内容・方法に関する科目「乳児保育Ⅱ」			
担当教員の実務経験	私立保育園で保育士として勤務。公立幼稚園で幼稚園教諭として勤務。			

＜授業概要＞

・3 歳未満児の成長・発達や特性をふまえつつ、保育者としての援助の基本的な考え方を学び、その方法について実践を通して学ぶ。

＜授業の到達目標＞

・3 歳未満児の成長・発達や特性をふまえた援助の考え方を理解する。

・3 歳未満児においての、具体的な生活援助の方法、遊びに関する援助の方法を実践し理解する。

＜授業方法＞

実際の保育の様子を講義や DVD 視聴を通して理解し、3 歳未満児の具体的な援助を実践する。

＜授業計画＞

第 1 回　オリエンテーション、乳児保育の基本

第 2 回　妊娠、出産、生後 57 日までの育児

第 3 回　0 歳児の保育

第 4 回　0 歳児の遊び①

第 5 回　0 歳児の遊び②

第 6 回　0 歳児の生活援助（調乳・授乳）

第 7 回　0 歳児の生活援助（沐浴・おむつ替え）

第 8 回　1 歳児クラスの 1 日

第 9 回　2 歳児クラスの 1 日

第 10 回　1,2 歳児クラスの遊び

第 11 回　子ども子育て支援新制度①

第 12 回　子ども子育て支援新制度②

第 13 回　乳児院について

第 14 回　3 歳未満児の児童文化財

第 15 回　まとめと発表

＜授業時間外学修＞

0 歳児のおもちゃの作成の仕上げ。

＜テキスト＞

乳児保育　新基本保育シリーズ⑮　児童育成協会監修　中央法規出版

＜参考書・参考資料＞

資料は適宜配布する。

＜成績評価＞

リアクションペーパーによる平常点 20%、課題提出、発表 80%

＜備考＞

特になし

発達心理学			大谷　康太	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	教育の基礎的理解に関する科目「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」			
保育士養成課程の区分	保育の対象の理解に関する科目「保育の心理学」			
担当教員の実務経験	私立小学校にて小学校教員として勤務			

＜授業概要＞
本授業では、発達心理学における代表的な理論や研究成果について、感覚・運動・自己認識・感情・認知・言語・アタッチメント・社会性などの観点から講義を行う。また、発達に関わる知識をもとに、保育・教育現場における実践や今日の諸課題について検討する。

＜授業の到達目標＞
１）授業の各テーマについて、自分なりの関心を持ちながら、子どもの発達に関わる知識を習得し、説明することができる。また、その知識をもとに、子どもの心身の発達について理解を深めている。
２）子どもの状態像の背景や、保育・教育における様々な活動や環境の意義について、科学的な視点をもって考えることができる。

＜授業方法＞
講義を中心として、適宜、事例や映像資料を用いたり、グループワークを取り入れたりする。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション，発達とは何か，発達の規定要因（遺伝と環境）
第2回　胎児期・周産期の発達
第3回　感覚と運動の発達
第5回　自己と感情の発達
第6回　認知の発達①（総論・代表的理論）
第7回　認知の発達②（各論）
第8回　言語・コミュニケーションの発達
第9回　アタッチメントの発達
第10回　社会性・道徳性の発達
第11回　発達の性差
第12回　脳の発達
第13回　発達の多様性①
第14回　発達の多様性②
第15回　まとめと試験

＜授業時間外学修＞
事前学習（2時間）…教科書や参考資料の該当箇所を予習する。
事後学習（2時間）…毎回の授業で考えたことや学んだことを自分なりに調べて整理する。

＜テキスト＞
開一夫・齋藤慈子(編)(2018).ベーシック発達心理学.東京大学出版会.

＜参考書・参考資料＞
森口佑介(2014).おさなごころを科学する:進化する乳幼児観.新曜社.
幼稚園教育要領(平成29年3月告示　文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
その他適宜、授業内で指示する。

＜成績評価＞
試験（70%），毎回の振り返りと課題への取り組み（30%）によって評価する。

＜備考＞
特になし

発展身体表現			小貫　凌介	
選択科目	演習	1単位	2年次	単独

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目
担当教員の実務経験	―

＜授業概要＞

身体表現活動の理論と実践を通して、幼児の発達に応じた表現活動の構成力・創作力・指導力を養う。
運動会や発表会などの行事における表現活動を想定し、ダンス創作や小道具制作、集団表現の構成などを実践的に学ぶ。また、素材を活用した表現活動や演出方法について理解を深め、幼児の豊かな感性と主体的な表現を引き出す保育実践につなげる。

＜授業の到達目標＞

1　身体表現活動の基本的な構成要素（空間・時間・強弱）を理解し、活動を構成することができる。
2　幼児の発達段階や行事の目的に応じた表現活動を計画・創作することができる。
3　小道具や素材を活用した表現活動の演出効果を考えることができる。
4　安全面に配慮しながら集団表現活動を指導する方法を理解する。
5　身体表現活動を通して幼児の主体性や表現力を引き出す保育実践について考察できる。

＜授業方法＞

講義および実技演習を組み合わせて授業を行う。
グループワークや創作活動を通して、実践的な身体表現活動の構成と指導方法について学ぶ。

＜授業計画＞

第1回　ガイダンス(発展科目の位置づけ、身体表現の構成要素（空間、時間、強弱）
第2回　身体表現の構成理論(導入、展開、クライマックス、終結)
第3回　運動会における表現活動、年齢別ダンス構成（難易度、繰り返し、移動）
第4回　運動会ダンス創作①(グループでテーマ決定、曲選定)
第5回　運動会ダンス創作②(振付づくり、隊形変化)
第6回　小道具製作①(ポンポン、リストバンド、旗など)
第7回　小道具製作②(動きとの融合、小道具を知る)
第8回　パラバルーン発展(技の組み合わせ、演出構成、集団統率法)
第9回　素材を活かした群舞表現、縄跳び（新聞紙、布など）
第10回 作品構成見直し(中間発表、講評)
第11回 最終創作①
第12回 最終創作②
第13回 発表会形式リハーサル
第14回 最終発表
第15回 振り返り・レポート

＜授業時間外学修＞

事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。

＜テキスト＞

乳幼児のための豊かな感性を育む身体表現遊び

＜参考書・参考資料＞

幼稚園教育要領　（平成30年3月告示　文部科学省）
保育所保育指針　（平成30年3月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　（平成30年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞

創作過程への参加　30%・製作物20%・最終発表30%・レポート20%

＜備考＞

特になし

表現			甲田美香	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容演習」			
担当教員の実務経験	私立こども園にて副園長・保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務			

＜授業概要＞
領域「表現」のねらいと内容を理解し、子どもが「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」ための指導について学ぶ。
実践的活動を通して表現することの楽しさを感じ、想像力や創造性を高める。

＜授業の到達目標＞
・領域「表現」のねらいと内容を踏まえて表現の指導法について理解し説明できる。
・子どもの発達や多様性を理解し、一人ひとりの表現の捉え方受け止めることができる。
・様々な実践的活動を通して、知識や技術を習得する。

＜授業方法＞
演習と講義を複合的に行う。
演習：クラス全体、個人活動、個人発表、グループ活動、グループ発表など

＜授業計画＞
第１回　　ガイダンス
第２回　　領域「表現」とは　生活の中での子どもの表現
第３回　　子どもの歌①　リズムで遊ぶ①即興的表現・
第４回　　子どもの歌②　リズムで遊ぶ②かかわりから芽生える表現
第５回　　自然を感じる心と感性
第６回　　素材との応答①ものの特性を活かした表現
第７回　　素材との応答②形・色・手触りから広がる表現
第８回　　文化との出会い①年中行事、伝承遊びにみる表現
第９回　　文化との出会い②児童文化財にみる表現
第１０回　物語と表現①イメージと表現
第１１回　物語と表現②コミュニケーションとしての表現
第１２回　総合的な表現活動③ものをつかった表現
第１３回　総合的な表現活動④身体・言葉で表現する楽しさ
第１４回　模擬保育　伝え合う喜び
第１５回　授業全体振り返り

＜授業時間外学修＞
事前事後学修として、前回及び当日の授業内容の復習と確認をする。

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料＞
『子どもと表現　応答性豊かな保育者になるために』島田由紀子 他（2025）中央法規
『幼稚園教育要領』（平成 29 年３月告示　文部科学省）
『保育所保育指針』（平成 20 年３月 28 日告示　厚生労働省）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
課題プリント 40%、個人活動（活動、発表）グループ活動（活動、発表）

＜備考＞
全ての演習への参加が学修を完遂するための必要条件である。

保育原理			須藤 克	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	保育の本質・目的に関する科目「保育原理」			
担当教員の実務経験	私立認可保育園にて保育士(担任・主任・園長)として勤務 私立保育園運営本部にてスーパーバイザーとして勤務			

＜授業概要＞
教育・保育における諸問題、現代社会の子どもをめぐる環境を踏まえ、保育を支える基礎理念を多角的な視点から習得する。又、教育・保育における専門性、専門職としての意義を理解し、使命感や倫理観を育むことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
「保育とはなにか？」保育士のあるべき姿、保育士の資質について学ぶ。又、教育・保育の歴史、現代の問題を知り、現代を生きる子どもに必要な保育を学ぶ。

＜授業方法＞
講義を中心とする。又、グループワークを交え、個々の意見を聞きながら担当教員の経験に基づいた保育現場の実情を伝えていく。

＜授業計画＞
第 1 回　保育とは
第 2 回　保育のねらいと内容
第 3 回　生涯発達における乳幼児期の重要性
第 4 回　保護者支援
第 5 回　保育所保育指針と変遷
第 6 回　子どもの発達と特性
第 7 回　環境による保育
第 8 回　教育・保育における専門性
第 9 回　多様な保育内容とその方法
第 10 回　３つの柱と 10 の姿
第 11 回　西洋における保育の歴史
第 12 回　日本の保育の歴史・現状と課題
第 13 回　子どもの最善の利益とは
第 14 回　まとめ～振り返り～
第 15 回　総まとめ・試験

＜授業時間外学修＞
オフィスアワーとして授業前は講師控室、授業終了後、教室内で受け付ける。

＜テキスト＞
※その他適宜必要な資料を講義内で配布する。

＜教科書・参考資料＞
新版　保育原理　(一藝社)

＜成績評価＞
定期試験 60%　授業への取り組み 40%(提出物含む)

＜備考＞
特になし

保育実習Ⅰ（施設）			小林　根	
必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	介護施設にて介護福祉士、社会福祉士として勤務			

＜授業概要＞
児童福祉施設等での実習を通じて、養護の必要な子どもや障害児（者）と関わり、施設保育士としての確かな知識、技術を習得する。また、他の専門職との連携や生活環境の整備、地域社会における施設の役割機能について総合的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、説明することができる。
2. 観察や関りを通して養護の必要な子どもや障害児（者）についての知識を修得する。
3. 養護の必要な子どもや障害児（者）及びその家族への支援方法の技術を修得する。
4. 施設保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解し、説明することができる。

＜授業方法＞
本校が指定する児童福祉施設や児童相談所（一時保護所）に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の支援方法の実際を学ぶ。

＜授業計画＞
１．施設の役割と機能
（１）施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。
（２）施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。
２．子ども・利用者の理解
（１）子どもの観察とその記録 を通して理解する。
（２）個々の状態に応じた援助や関わりを理解する。
３．施設における子ども・利用者の生活と環境 。
（１）計画に基づく活動や援助の実際を学ぶ。
（２）子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と対応の方法について学ぶ。
（３）子どもの活動と環境を知る。
（４）健康管理、安全の確保を理解する。
４．計画と記録
（１）支援計画の理解と活用の方法を理解する。
（２）記録に基づく省察・自己評価 ができる。
５．専門職としての保育士の役割と倫理
（１）施設保育士の業務内容を理解する。
（２）職員間の役割分担や連携の方法を学ぶ。
（３）保育士の社会的役割と職業倫理を学ぶ。

＜授業時間外学修＞
・事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。

＜テキスト＞
施設実習ガイド 第 2 版 田中利則：監修, 加藤洋子/一瀬早百合/飯塚美穂子：編著（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞
2026 年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）

＜成績評価＞
施設評価 40% 日誌 50%、実習報告書 10%

＜備考＞
施設実習Ⅰの単位取得のためには、施設実習指導Ⅰの事前指導を 3 分の 2 以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導Ⅰにおいて事後指導を受けなければならない。

保育実習Ⅰ（保育所）			清水　かおり	
必修科目	演習	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務			

＜授業概要＞
保育士資格取得のため、学外の保育実習現場において実習体験を行う。
保育所における保育者の役割と、0歳から5歳児まで年齢の異なる子どもへの関わり方を学ぶ。
乳児期から幼児期の子どもと実際に関わり、子ども理解を深める。
保育所の社会的役割を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

＜授業方法＞
保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。

＜授業計画＞
1．保育所の役割と機能
（1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
（2）保育所保育指針に基づく保育の展開
2．子どもの理解
（1）子どもの観察とその記録による理解
（2）子どもの発達過程の理解
（3）子どもへの援助や関わり
3．保育内容・保育環境
（1）保育の計画に基づく保育内容
（2）子どもの発達過程に応じた保育内容
（3）子どもの生活や遊びと保育環境
（4）子どもの健康と安全
4．保育の計画・観察・記録
（1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解
（2）記録に基づく省察・自己評価
5．専門職としての保育士の役割と職業倫理
（1）保育士の業務内容
（2）職員間の役割分担や連携・協働
（3）保育士の役割と職業倫理

＜授業時間外学修＞
保育実習指導Ⅰで学んできた実践的対応や理論的枠組を理解できているか振り返る。
基本的な保育所の役割や、各実習先の概要について予習・復習して臨む。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子　わかば社　2023年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
実習園評価（20%）、日誌（70%）、実習報告書（10%）

＜備考＞
保育実習Ⅰ（保育所）の実施は、保育実習指導Ⅰ（保育所）の事前指導の出席要件が授業回数の3分の2以上を満たしていなければならない。
保育実習指導Ⅰ（保育所）と相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。

保育実習Ⅱ（施設）			蠣﨑　尚美	
選択必修科目	講義	2 単位	1 年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	乳児家庭全戸訪問事業（厚生労働省）にて訪問員として勤務 地域包括支援センターにて社会福祉士（非常勤）として勤務			

＜授業概要＞
児童福祉施設等での実習を通じて、養護の必要な子どもや障害児（者）と関わり、施設保育士としての確かな知識、技術を習得する。また、他の専門職との連携や生活環境の整備、地域社会における施設の役割機能について総合的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
１．既習の教科目や保育実習・施設実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。
２．　家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、 障害児支援に対する理解をもとに、支援計画の立案・実施を経験し、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を習得する。
３．保育士の業務内容や職業倫理、人権擁護について具体的な実践に結びつけて理解する。
４．実習における自己の課題を理解する。

＜授業方法＞
・保育所や施設実習Ⅰで経験した施設以外の児童福祉施設や障害者施設に学生を配当し、施設保育士の指導を受けながら児童・障害児（者）の個別支援計画の立案や相談支援の実際を学ぶ。
・日々の省察を日誌に記述する。
・これまでの実習を省察し、自らの課題についてまとめる。

＜授業計画＞
１．児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能
（１）施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わりを知る。
（２）施設の生活と一日の流れから児童福祉施設の役割・機能を学ぶ。
２．施設における支援の実際
（１）受容し、共感・傾聴する態度を形成する。
（２）個人差や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズを把握し、子ども・利用者の理解を深める。
（３）個別支援計画の立案及び作成と実践
（４）子ども（利用者）の家族への相談支援と対応
（５）各施設における多様な専門職との連携・協働
（６）地域社会との連携・協働
３．保育士の多様な業務と職業倫理
４．保育士としての自己課題の明確化

＜授業時間外学修＞
・事前オリエンテーションにて施設の概要を把握し、実習に備えた準備をしておく。

＜テキスト＞
施設実習ガイド 第 2 版 田中利則：監修, 加藤洋子/一瀬早百合/飯塚美穂子：編著（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞
2026 年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）

＜成績評価＞
施設評価 40% 日誌 50%、実習報告書 10%

＜備考＞
・施設実習Ⅱの単位取得のためには、施設実習Ⅰ及び施設実習指導Ⅰの単位を取得したうえで、施設実習指導Ⅱの事前指導を 3 分の 2 以上出席していなければならない。実習終了後は施設実習指導Ⅱにおいて事後指導を受けなければならない。

保育実習Ⅱ（保育所）			田村雅美	
選択必修科目	実習	2 単位	2 年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	私立保育所にて保育士・主任保育士として勤務			

＜授業概要＞
・保育所の役割や機能について、乳幼児理解と個に応じた援助について学ぶ集団やクラス運営における援助の仕方について学ぶ計画と環境構成について実践を交えながら理解を深める
・実際の家庭・地域との連携について見て学ぶ

＜授業の到達目標＞
1．保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3．既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4．保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5．保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6．実習における自己の課題を明確化する。

＜授業方法＞
保育所において実際に保育を観察、参加し、実践的に保育を学習する。

＜授業計画＞
1．保育所の役割や機能の具体的展開
（1）養護と教育が一体となって行われる保育
（2）保育所の社会的役割と責任
2．観察に基づく保育の理解
（1）子どもの心身の状態や活動の観察
（2）保育士等の援助や関わり
（3）保育所の生活の流れや展開の把握
3．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
（1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
（2）入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
（3）関係機関や地域社会との連携・協働
4．指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
（1）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
（2）作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
5．　保育士の業務と職業倫理
（1）多様な保育の展開と保育士の業務
（2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6．自己の課題の明確化

＜授業時間外学修＞
保育実習Ⅱのスケジュールを把握し、日々の省察を日誌にまとめて翌日の実習にいかす。
これまでの実習を省察し、自らの課題についてまとめる。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2023 年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
実習園評価（20%）、日誌（70%）、実習報告書（10%）

＜備考＞
保育実習Ⅱの実施は、保育実習指導Ⅱの事前指導の出席要件が授業回数の 3 分の 2 以上を満たしていなければならない。
保育実習指導Ⅱと相互の履修認定をもって単位認定の要件とする。

保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）			小林　根	
必修科目	講義	2単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	－			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」			
担当教員の実務経験	介護施設にて介護福祉士、社会福祉士として勤務			

＜授業概要＞
保育所以外の児童福祉施設や障害者施設における実習を前に、施設実習の意義や目的を学ぶ。児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークや車椅子介助などの演習を取り入れ、実習に向けての事前指導を行う。また、オリエンテーション時の提出書類の作成をはじめ、日誌の書き方、実習計画書の作成など、実習に必要となる書類等の作成指導を行う。さらに、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習の体験発表を通して、学生同士の相互理解を深める。

＜授業の到達目標＞
1．施設実習の意義・目的を理解する。
2．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる。
3．実習施設における子どもや障害児（者）の人権と最善の利益を考慮することができる。
4．プライバ シーの保護と守秘義務等について理解する。
5．実習の実践・観察・記録の技術を修得する。
6．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

＜授業方法＞
座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握（調べ学習）を行うとともに、「障害者観」や養護の必要な「子ども観」をテーマにグループワークを実施する。また、その結果をレポートにまとめ、発表の機会を持ち、実習に備える。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。

＜授業計画＞
第 1 回 施設実習とは（施設実習の意義・目的について）
第 2 回 施設実習の概要と全体像と施設実習の主な流れ
第 3 回 施設の種別と目的、形態と役割機能（養護系施設と障害系施設、入所系施設と通所系施設）
第 4 回 施設のおける保育士の業務・実習の内容と課題の明確化
第 5 回 施設を利用する子ども・障害児（者）の理解・子どもの人権と最善の利益の考慮
第 6 回 障害を持つ子どもの介助方法（車いす操作）
第 7 回 障害を持つ人の歩行介助（歩行介助・白杖体験）
第 8 回 実習に際しての心構え、留意事項（プライバシーの保護と守秘義務・権利擁護）
第 9 回 実習に向けての事前学習・施設実習計画書の作成と目標の立て方。
第 10 回 記録（日誌）の書き方（実習における観察、記録及び評価の方法）
第 11 回 施設種別ごとの日課と業務・実習の心得と施設職員との関わり
第 12 回 児童施設における感染症予防とリスクマネジメント
第 13 回 事前オリエンテーションと実習施設の把握
第 14 回 実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導
第 15 回 事後指導における実習の総括と課題の明確化・振り返りと自己評価・実習報告書作成

＜授業時間外学修＞
・予習ノートの作成と提出：テキストの中で授業に関連する部分（10 箇所）を事前に指定し、授業前までに感想や気づいたことを書いてもらうノートを作成する。予習ノートの進み具合を確認するため、定期的に提出と返却実施する。
・施設実習計画書（下書き）の提出を求め、添削の上授業内にて返却し清書させる。清書したものはオリエンテーション当日に他の書類とともに施設へ持参するよう指導している。

＜テキスト＞
施設実習ガイド 第 2 版 田中利則：監修, 加藤洋子/一瀬早百合/飯塚美穂子：編著（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞
2026 年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）

＜成績評価＞
提出物 100%

＜備考＞
施設実習指導Ⅰにおいて、事前指導の 3 分の 2 以上を出席しなければ施設実習を行うことはできない。また、単位認定のためには施設実習指導Ⅰの事後指導を受けなければならない。

保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）			清水　かおり	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅰ」
担当教員の実務経験	公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務

＜授業概要＞
・保育実習Ⅰ（保育所）を実施する上で必要な事項について学び、実習の準備をする。
・保育所の役割・機能、また保育者の役割と様々な年齢の子どもへの関わり方の配慮を知る。
・乳児期から幼児期の成長プロセスを知り、子ども理解を深めると共に、保育士等の専門職の役割や職業倫理についても理解を深める。

＜授業の到達目標＞
1．保育実習の意義・目的を理解する。
2．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

＜授業方法＞
調べ学習を取り入れることで実習園の特徴を事前に捉え、実習のイメージがもてるようにしていく。

＜授業計画＞
（事前指導）
第1回　保育実習Ⅰ（保育所）の意義・目的・内容の理解と心構え
第2回　保育所の役割、保育の計画及び評価の理解
第3回　子どもの生活や遊びと保育環境
第4回　子どもの理解（1）乳児の発達と保育内容・乳児の1日の流れ
第5回　子どもの理解（2）幼児の発達と保育内容・幼児の1日の流れ
第6回　職員間の連携と協働
第7回　実習課題の立て方
第8回　オリエンテーションに向けて、実習書類の準備（身上書・出勤簿・カルテ）
第9回　子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方①＜時系列＞
第10回　子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方②＜エピソード＞
第11回　子どもの観察と子どもへの援助や関わり／日誌の書き方③＜ねらいと省察・自己評価＞
第12回　事前指導のまとめと実習後の流れの確認、職業倫理等、実習に際する留意事項の確認
（事後指導）
第13回　実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価
第14回　実習の振り返り（2）課題の明確化（グループワーク）
第15回　実習の振り返り（3）園評価伝達と実習Ⅰの学びのまとめ

＜授業時間外学修＞
テキスト内容や「実習の手引き」（本学の実習参考資料）を繰り返し読み、実習に関する規則や内容について理解しておく 。
0歳～就学前の子どもの発達について繰り返し確認しておく。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子　わかば社　2023年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）
保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
課題・提出物（100%）

＜備考＞
保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の3分の2以上に出席すること、および保育実習Ⅰ（保育所）の単位修得が必要となる。

保育実習事前事後指導Ⅱ（施設）			蠣﨑　尚美	
選択必修科目	講義	2 単位	2 年次	単独

教員養成課程の区分	－
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」
担当教員の実務経験	乳児家庭全戸訪問事業（厚生労働省）にて訪問員として勤務 地域包括支援センターにて社会福祉士（非常勤）として勤務

＜授業概要＞
施設実習Ⅰの実習を踏まえ、施設実習の意義や目的を再確認し、児童福祉施設の種別や役割機能の理解を深めるため、テキストや資料を活用しながらグループワークを行う。また、施設実習Ⅰとは異なる施設での実習に向けて事前指導を行うとともに、(模擬）支援計画書の作成を行う。さらに、(責任）部分実習指導案を立案する。また、実習後は事後指導を行い、実習の振り返りの機会を持つとともに、実習報告書の作成と実習の体験を発表する。

＜授業の到達目標＞
1．施設実習Ⅱの意義と目的を理解し、養護の必要な子どもや障害児（者）の支援について総合的に理解できる。
2．既習の教科目や保育実習Ⅰ（保育所・施設）の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について説明することができる。
3．子ども家庭福祉、社会的養護、 障害児支援に対する理解をもとに、支援の目標設定と計画の立案ができる。
4．保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。
5．家庭と地域の生活実態を理解し、保護者支援、家庭支援の知識、技術を修得する。
6．施設実習Ⅰの経験から、施設実習Ⅱにおける自己の課題を理解できる。

＜授業方法＞
座学だけでなく学生の能動的な学習を促進するため、実習施設の事前把握（調べ学習）を行うとともに、事例を通して支援目標の設定と支援計画の立案を行い、対人援助の具体的方法を学ぶ。そして、支援計画書を持ち寄り、グループワークを実施し、他職種連携や担当者会議の実際を学ぶ。また、部分実習の指導案を立案し、プレゼンテーションを行う。実習後は報告書を作成し、グループワークにおいて互いの体験を共有する機会を持つ。

＜授業計画＞
第 1 回 実習の総括と自己評価および課題の明確化
施設実習による総合的な学び（施設実習Ⅰでの経験を振り返る）
第 2 回 施設の種別とその機能
第 3 回 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（養護系施設）
第 4 回 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり（障害系施設）
第 5 回 施設保育士の役割と支援の実践
第 6 回 支援目標の設定と支援計画の立案および実践(計画と観察、記録、自己評価と改善）
第 7 回 保育の知識・技術を活かした保育実践
第 8 回 施設保育士の専門性と職業倫理
第 9 回 日本保育士会倫理綱領の理解・保育観の形成と深まり
第 10 回 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
第 11 回 子どもの保育と保護者支援・施設と地域社会との関わり
第 12 回 実習直前の確認と指導、及び実習後の日誌返却・提出の確認と指導
第 13 回 事後指導：省察 実習振り返り記入
第 14 回 事後指導：グループワーク 種別ごとの振り返り
第 15 回 事後指導：グループワーク 実習報告会

＜授業時間外学修＞
・保育実習Ⅰ（施設）の実習日誌を見直し、施設での 1 日の流れや子ども・利用者の姿と支援内容の結びつきを学ぶ。
・子ども・利用者の姿に合った支援に向けて、テキストや図書などを活用しながら、施設利用者児の興味関心に相応しい支援内容を考え、レポートにまとめる。

＜テキスト＞
施設実習ガイド 第 2 版 田中利則：監修, 加藤洋子/一瀬早百合/飯塚美穂子：編著（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞
2026 年度実習の手引き（聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）

＜成績評価＞
提出物 100%

＜備考＞
・保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修し、単位認定されていなければならない。
・施設実習指導Ⅱにおいて、事前指導の 3 分の 2 以上を出席しなければ施設実習Ⅱを行うことはできない。
・単位認定のためには施設実習指導Ⅱの事後指導を受けなければならない。

保育実習事前事後指導Ⅱ（保育所）			田村雅美	
選択必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	「保育実習Ⅱ」			
担当教員の実務経験	私立保育所にて保育士・主任保育士として勤務			

＜授業概要＞
1．保育所の役割や機能について保育実習 II を通して理解を深める実習の意義と目的を理解する。
2．乳幼児の一人ひとりに応じたかかわりと援助方法と、集団やクラス運営における援助方法を明らかにすることで乳幼児理解と保育の理解について学ぶ。
3．保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善と環境構成について実践や事例を通して学ぶ。
4．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解するとともに、保育士としての自己の課題を明確化する。
5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
6．既習の教科や保育実習 I の経験を踏まえ、乳幼児の保育実践力を培うと共に、保護者支援、家庭地域との連携について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1．保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2．実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4．保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

＜授業方法＞
随時ディスカッションなどの意見交換を取り入れ、実習や今後の実践への期待や不安を他者と共有することによって保育現場での学びをより具体的にしていく。
模擬保育を取り入れ、責任実習にむけた準備をより具体的に行う。

＜授業計画＞（事前指導）
第 1 回　保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解と心構え
第 2 回　実習課題の立て方と実践に向けて・子育て支援
第 3 回　実習書類準備（身上書・出勤簿）・職業倫理（誓約書）
第 4 回　教材研究の実践
第 5 回　責任実習の概要、保育士の専門性
第 6 回　保育の実践力（1）指導案の立案
第 7 回　保育の実践力（2）模擬保育
第 8 回　保育の実践力（3）模擬保育振り返・まとめ
第 9 回　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（1）様々な記録
第 10 回　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（2）学びを深める記録形式
第 11 回　保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善（2）保育実習Ⅰの課題から
第 12 回　実習計画・実習に際する留意事項の確認
（事後指導）
第 13 回　実習の振り返り（1）実習の総括と自己評価
第 14 回　実習の振り返り（2）学びの共有と再確認（グループワーク）
第 15 回　実習の振り返り（3）課題の明確化（グループワーク）

＜授業時間外学修＞
保育実習Ⅰの実習日誌を見直し、保育所の 1 日の流れや子どもの姿と保育内容との結びつきを学ぶ。子どもの姿に合った保育の実践に向けて、テキストや保育図書などを活用しながら、年齢や興味関心に相応しい保育内容を考える。

＜テキスト＞
『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』（小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子 わかば社 2023 年版）

＜参考書・参考資料＞
「実習の手引き」（本学の実習参考資料）保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
課題・提出物（100%）

＜備考＞
保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位取得には、通常の出席要件に加えて事前指導および事後指導それぞれの授業回数の 3 分の 2 以上に出席すること、および保育実習Ⅱ（保育所）の単位修得が必要となる。

保育実地研究 A			岸本圭子・小林根・蠣崎尚美・清水かおり・田村雅美・太田淳平・大谷康太	
必修科目	演習	1 単位	1 年次	複数
教員養成課程の区分	―			
保育士養成課程の区分	学校独自の科目			
担当教員の実務経験				

＜授業概要＞

本授業は、教育保育実地研究 B にて実施する附属園および提携園での体験学習に向けて、子どもの発達や保育の仕事についての理解を深めるとともに、体験学習や実習、そして保育者になるための心構えを育むための必修科目である。子どもや保育のイメージを明確にして、今後の授業や実習にスムーズに臨むための入門的・導入的な授業である。

＜授業の到達目標＞

1，子どもと一緒に生活や遊びをする楽しさを味わう中で、子どもを知る。
2，園の環境や、子どもに対する保育者の関わり方を知る。

＜授業方法＞

学校での講義や説明を通じて、体験学習の心構えや子どもとの関わり方、書類や記録の書き方などについて学び、準備する。また授業以外の時間で教材研究を進め、体験学習の際に子どもと楽しむ教材研究の準備をする。

＜授業計画＞

第 1 回：オリエンテーション：教員紹介、学校生活の注意点、体験学習の日程、心構え
第 2 回：教材研究について／幼稚園・保育所・認定こども園について
第 3 回：健康管理、予防接種について／附属園と見学実習についての説明／カルテ記入
第 4 回：誓約書作成／身上書書類の準備
第 5 回：細菌検査について／文章の書き方
第 6 回：附属園での見学
第 7 回：見学の振り返り
第 8 回：施設でのオリエンテーションについて
第 9 回：身上書の作成
第 10 回：トラブルシューティング／オリエンテーション最終確認
第 11 回：施設でのオリエンテーション
第 12 回：体験学習の振り返り
第 13 回　「体験学習を終えて」の書き方（下書き）
第 14 回　実地研究のまとめ／日誌の提出
第 15 回　「体験学習を終えて」（清書）提出

＜授業時間外学修＞

各自教材研究を進め、子どもと関わる準備をする。

＜テキスト＞

小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社
「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部編

＜参考書・参考資料＞

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

＜成績評価＞

教材研究ノート・提出物（100%）

＜備考＞

特になし

保育実地研究Ｂ			岸本圭子・小林根・蠣崎尚美・清水かおり・田村雅美・太田淳平・大谷康太	
必修科目	演習	１単位	１年次	複数

教員養成課程の区分	―
保育士養成課程の区分	学校独自の科目
担当教員の実務経験	―

＜授業概要＞

本授業では、附属園及び提携園に行き、実際に子どもたちと関わり遊ぶことを通して、子どもや幼稚園、保育所、認定こども園の役割について理解する。現場での体験的な学習を通じて保育者として働くイメージを明確にするとともに、学校で学ぶ意義や意識を高め、実習への心構えを整えることを目的とする。

＜授業の到達目標＞

１．実際に子どもとともに遊びや生活をする楽しさを味わう中で、子どもを知る。
２．園の環境や保育者の関わり方を知る。

＜授業方法＞

隔週で１日附属園または提携園に行き、直接子どもと関わる。そのかかわりの中で様々な発見や気づきを記録に書き残す。また担当の保育者より、子どもの様子や配慮すべきことなど、直接質問をするなどして、指導を受ける。

＜授業計画＞

第１回：体験学習１　園での生活に慣れ、子どもを知る
第２回：体験学習１　振り返り・記録書き
第３回：体験学習１　園での気づきグループワーク
第４回：体験学習２　子どもと過ごす
第５回：体験学習２　子どもと遊ぶ
第６回：体験学習２　振り返り・記録書き
第７回：体験学習２　子どもの遊びグループワーク
第８回：体験学習３　子どもの好きなことを見つける
第９回：体験学習３　子どもの好きなことや遊びをともに楽しみ、教材研究につなげる
第10回：体験学習３　振り返り・記録書き
第11回：体験学習３　教材実践に向けたグループワーク
第12回：体験学習４　子どもの前で教材を実践する
第13回：体験学習４　子どもと過ごす時間を楽しむ
第14回：体験学習４　振り返り・記録書き
第15回：体験学習４　教材実践の振り返り・グループワーク

＜授業時間外学修＞

各自教材研究を進め、子どもと関わる際の準備をする。

＜テキスト＞

小櫃 智子 ほか「幼稚園、保育所、認定こども園実習 パーフェクトガイド」わかば社
「実習の手引き」 聖ヶ丘保育専門学校 実習指導部編

＜参考書・参考資料＞

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

＜成績評価＞

教材研究ノート・提出物（100%）

＜備考＞

保育内容指導法			田村 雅美	
必修科目	演習	1単位	1年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容総論」			
担当教員の実務経験	私立保育所にて保育士・主任保育士として勤務			

＜授業概要＞

1 幼児教育における育みたい資質・能力を理解し、保育所保育指針等に示された内容から保育の全体構造を学ぶ。

2 幼児の発達や特性を知り主体的・対話的で深い学びに結び付く保育内容指導法の基礎を具体的な事例や視聴覚教材を使用し学習する。

3 対象児の発達段階に適した指導案を知り教材研究を行う。

＜授業の到達目標＞

1 保育所保育指針等における幼児教育の基本と各領域のねらい内容を知り保育の全体構造を理解する

2 幼児の特性と発達を理解し幼児の具体的な保育内容を知り、保育を想定する

3 保育計画・指導案の構成を理解する。

4 学びと育ちの連続性（小学校への接続）を知る。

＜授業方法＞

調べ学習・体験学習

＜授業計画＞

第1回　授業についてのオリエンテーション・「保育内容」とは何か

第2回　幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園と保育内容

第3回　遊びと学び・子どもを見るまなざし

第4回　子どもの発達・乳児と1歳以上3歳未満児の保育内容指導法

第5回　領域「健康」と保育内容指導法　　体の発達と遊び

第6回　子どもの安全な生活と生活場面での保育

第7回　領域「人間関係」と保育内容指導法　子どもの発達と人との関係

第8回　領域「言葉」と保育内容指導法　　子どもの言葉を育む　絵本教材研究

第9回　領域「環境」と保育内容指導法　　子どもの物的・人的環境　子どもと自然環境

第10回　領域「表現」と保育内容指導法　　遊びの中で育つ感性と表現

第11回　総合的な保育内容指導法第

第12回　個と集団の育ち　　様々な保育形態と保育

第13回　学びの連続性「小学校への接続」をふまえた保育

第14回　子どもの姿と指導計画

第15回　まとめ・筆記試験

＜授業時間外学修＞

保育所保育指針等の予習

＜テキスト＞

はじめて学ぶ「保育内容の指導法」谷村宏子編著（ミネルヴァ書房）

＜参考書・参考資料＞

保育所保育指針・幼稚園教育要領

＜成績評価＞

定期試験（５０％）演習内容の振り返り・提出物（５０％）

＜備考＞

特になし

幼児と音楽表現			高橋拓真	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「幼児と音楽表現」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
幼児期における音楽表現や、発達との関連を理解するための基本的事項を学ぶと共に、実践を通して豊かな音楽性を養い、幼児の表現を支えるための知識・技能・表現力の向上を目指す。

＜授業の到達目標＞
幼児期の表現が生成される過程を理解し、受容することができる。
身体の諸感覚を通して表現の多様性を修得し、表現することの楽しさや可能性、重要性を説明することができる。
協働して表現することを通し、多様な表現を受け止め共感する能力を養うことができる。
音楽遊びを通して豊かな音楽性を育み、幼児の表現活動を展開させる技術を修得することができる。

＜授業方法＞
グループワーク、発表

＜授業計画＞
第1回　ガイダンス・ハンドベルⅠ
第2回　ハンドベルⅡ
第3回　ハンドベルⅢ
第4回　ハンドベル発表・器楽合奏Ⅰ
第5回　器楽合奏Ⅱ
第6回　器楽合奏Ⅲ
第7回　器楽合奏発表・パラバルーンⅠ（編成）
第8回　パラバルーンⅡ（音楽に合わせた動きの構成・演出計画
第9回　パラバルーンⅢ（発表に向けた練習・改善）
第10回　パラバルーン発表・振り返り
第11回　コード演奏Ⅰ
第12回　コード演奏Ⅱ
第13回　コード演奏Ⅲ・試験
第14回　保育現場の子どもの音楽表現
第15回　まとめ・筆記試験

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の振り返り記述を実践・提出すること。

＜テキスト＞
『子どものための音楽表現技術－感性と実践力豊かな保育者へ－』今泉明美、他　株式会社萌文書林

＜参考書・参考資料＞
『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』神原雅之、他　教育芸術社
『幼稚園教育要領』（平成29年３月告示　文部科学省）
『保育所保育指針』（平成20年３月28日告示　厚生労働省）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
グループ評価 30%、個人評価 40%、筆記試験 30%
60～69点を「可」、70～79点を「良」、80点以上を「優」として単位認定する。

＜備考＞
全ての演習への参加が学修を完遂するための必要条件である。

幼児と環境			岸本　圭子	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「環境」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務			

＜授業概要＞

領域「環境」の指導に関わる、幼児を取り巻くさまざまな環境や、幼児と環境との関り方についての理解を深めることを目的とする。現代の幼児を取り巻く環境の変化を踏まえ、多様化した幼児の生活や遊びに応じて環境を構成できる保育者を目指し、必要な感性・知識・技術を身につけていく。

＜授業の到達目標＞

1）幼児を取り巻くさまざまな環境を理解し、その環境が幼児の発達にとってどのような意味をもつのかを理解する。
2）幼児期の思考の特徴や科学的な概念がどのように育っていくのかを理解する。
3）幼児が標識・文字・情報・施設など多様な環境とどのように関わり、その力を発達させていくのかを理解する。

＜授業方法＞

プリントに加えて、写真・動画などの視覚教材や具体的な事例を活用する。学生自身が調べながら学ぶ活動を取り入れ、グループワークや体験的な学習を通して、実践に生かせる知識や技術を身につけられるようにする。

＜授業計画＞

第1回　オリエンテーション、子どもと環境について
第2回　理論編　子どもが生きる世界①(幼児を取り巻く環境)
第3回　理論編　子どもが生きる世界②(幼児期の体験)
第4回　理論編　子どもが生きる世界③(乳幼児期の思考・概念の発達)
第5回　内容編　物との関わり①（身近な物との関わりを楽しむ経験）
第6回　内容編　物との関わり②（道具・用具との関わりを楽しむ経験）
第7回　内容編　生き物との関わり①（植物に関わり親しむ経験）
第8回　内容編　生き物との関わり②（虫・小動物との関わりを親しむ経験）
第9回　内容編　自然との関わり①（季節の出来事・自然現象・大自然に触れる経験）
第10回　内容編　文化や伝統との関わり
第11回　内容編　情報との関わり①（数量・図形に関わり親しむ経験）
第12回　内容編　情報との関わり②（標識・文字に関わり親しむ経験）
第13回　内容編　情報との関わり③（社会（情報・施設）に関わり親しむ経験）
第14回　教材発表
第15回　まとめ・試験

＜授業時間外学修＞

授業で扱った内容を復習し、授業内で終えられなかった演習や課題を進める。
次回の授業内容を踏まえ、関連する資料やテキストを読み調べ学習を行う。

＜テキスト＞

＜教科書・参考資料＞

「幼稚園教育要領解説　(平成30年3月)」文部科学省
「保育所保育指針解説　(平成30年3月)」厚生労働省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　(平成30年3月)」内閣府・文部科学省・厚生労働省

＜成績評価＞

提出物(演習ノート・作品他)・発表など60%・試験40%

＜備考＞

幼児と健康			小貫　凌介	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「健康」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
本科目では、乳幼児の基本的な生活習慣や心身の健康に関する内容、運動的活動に関する内容を中心に、心と体の調和のとれた発達について理解を深める。
健康な生活を営むための幼稚園教諭の役割などについての実践的な内容について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
1　領域「健康」のねらい、内容について説明できる。
2　乳幼児の身体的発達と健康の意義を理解できる。
3　発達段階に応じた運動遊びを計画・実践できる。
4　安全に配慮した指導ができる。

＜授業方法＞
講義・演習・実技を組み合わせて行う。
実技では模擬保育形式を取り入れ、実践的に学ぶ。

＜授業計画＞
第1回　ガイダンス(授業概要、評価方法・領域「健康」のねらいと内容、幼児と健康の基本的視点)
第2回　健康の定義と乳幼児期の健康の意義(身体機能の発達、生活習慣形成の基礎、乳幼児の発達的特徴)
第3回　道具を使用しない運動遊び(基本的動作、年齢別展開、安全配慮、振り返り)
第4回　基本的生活習慣の形成と安全教育(健康管理、怪我や病気の予防、事故防止の視点)
第5回　小道具を用いた運動遊び(援助と声かけ、発展的展開、安全確認)
第6回　幼児期の怪我の特徴と予防(安全管理、運動発達の特徴、多様な動きの意義)
第7回　大型遊具を用いた遊び(段階的指導、環境構成、安全配慮)
第8回　幼児期の運動発達と身体活動(基本的動作の整理、日常生活における動き、個人差への対応)
第9回　運動遊び総復習(道具なし、小道具、大型遊具、ミニ模擬保育)
第10回　グループ演習(運動遊び指導案作成、年齢設定、ねらい設定、安全配慮の明確化)
第11回　模擬保育①
第12回　模擬保育②
第13回　模擬保育③
第14回　全体の振り返り(理論と実践の整理、自己評価、現場での活用方法)
第15回　期末試験

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。
各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。

＜テキスト＞
保育内容「健康」と指導法: 考える・広がる・つながる

＜教科書・参考資料＞
幼稚園教育要領　(平成30年3月告示　文部科学省)
保育所保育指針　(平成30年3月告示　厚生労働省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　(平成30年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

＜成績評価＞
授業態度　実技参加(30%)　実践発表(20%)　期末試験(50%)

＜備考＞
特になし

幼児と言葉			大谷　康太	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項「言葉」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験				

＜授業概要＞
領域「言葉」の指導の基盤となる，幼児が豊かな言葉や表現を身に付け，想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を学ぶ。また，演習を通じて，保育者として必要な言葉への気づきと発達を育むための専門的技能を身に付ける。

＜授業の到達目標＞
1）人間にとっての言語の意義とその発達過程について説明できる。
2）言葉の楽しさや美しさを理解したうえで，幼児の言葉の感覚を豊かにするための手立てを考え，実践することができる。
3）児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）に関する基礎的知識やその意義を理解し，保育を想定した場面で効果的に活用することができる。

＜授業方法＞
講義，学生による発表，グループワーク，実技演習等を複合的に行う。

＜授業計画＞
第1回　オリエンテーション　人間と「ことば」
第2回　乳幼児期のことばの発達：前言語期
第3回　乳幼児期のことばの発達：言語期
第4回　保育環境とことばの発達：ことばの発達と環境の関係
第5回　保育環境とことばの発達：ことばに対する感覚を豊かにする働きかけ
第6回　文字言語としてのことばの発達
第7回　遊びとことばの発達，コミュニケーションの発達
第8回　ことばの発達に関わる諸問題
第9回　ことばの発達に関わる支援，第7回までの振り返り
第10回　ことばと想像を育む児童文化財
第11回　児童文化財（物語）の意義と活用
第12回　児童文化財（絵本）の意義と活用
第13回　児童文化財（紙芝居等）の意義と活用
第14回　現代社会を取り巻くことばの発達の諸問題
第15回　振り返り・まとめ

＜授業時間外学修＞
学修した内容について授業時間外にも考え，復習をすること。また，日頃から自身や子どもの発する「ことば」に目や耳を向け，その意義や面白さについて考えるようにして欲しい。

＜テキスト＞
必要に応じて適宜資料を配布する。

＜参考書・参考資料＞
宇野彰(編).(2007).ことばとこころの発達と障害. 永井書店.
広瀬友紀.(2017).ちいさい言語学者の冒険: 子どもに学ぶことばの秘密. 岩波書店.
幼稚園教育要領（平成29年3月告示，文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示，厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
レポート40%，発表40%，授業内での取り組み20%を基本的配分として総合的に評価する。

＜備考＞
特になし

幼児と身体表現			小貫　凌介	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
乳幼児期の身体表現の意義と発達的特徴を理解し、模倣遊び・素材遊び・集団表現活動を通して、保育現場で活用できる実践力を身につける。

＜授業の到達目標＞
1　乳幼児の身体表現の特徴と発達との関係を説明できる。
2　発達段階に応じた身体表現活動を構成できる。
3　素材や環境を活用した表現遊びを実践できる。
4　行事（運動会など）に応用できる活動を創作できる。

＜授業方法＞
対面授業、講義と実技演習を複合的に行う。

＜授業計画＞
第1回　ガイダンス(領域「表現」における身体表現の位置づけ、アイスブレイク身体活動)
第2回　幼児の身体表現の特徴(発達と表現の関係、模倣遊び体験)
第3回　幼児の感情表現と身体(心と身体のつながり、感情表現あそび実践
第4回　手遊び・指遊びの理論と展開(導入としての役割、身体表現への発展実践)
第5回　わらべ歌遊び(リズムと安心感、集団形成との関係)
第6回　自然体験と身体表現(感性を育むとは何か、自然をテーマにしたイメージワーク
第7回　イメージ表現遊び(言葉や音から動きを生み出す、少人数創作)
第8回　身近な素材と身体表現の理論(素材が動きを生む理由、新聞紙遊び実践)
第9回　パラバルーン活動(協同性と表現、安全配慮、運動会への応用)
第10回　身体表現活動の指導案作成(年齢設定、ねらい設定、安全面、導入)
第11回　運動会のオリジナル準備運動づくり(年齢別構成、短時間で効果的な流れ、安全確認)
第12回　素材、模倣、パラバルーンのいずれかで創作準備
第13回　グループ発表(相互評価、改善点検討)
第14回　理論の整理(身体表現の意義、発達との関連、保育現場での活用)
第15回　期末試験

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の振り返り記述を実施し、提出すること。
各自記録する授業ノートおよび配布資料を整理し、復習すること。

＜テキスト＞
乳幼児のための豊かな感性を育む身体表現遊び

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領　（平成30年3月告示　文部科学省）
保育所保育指針　（平成30年3月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　（平成30年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

＜成績評価＞
授業参加・実技態度(30%) 指導案(20%) 創作発表(50%)

＜備考＞
特になし

幼児と人間関係			清水　かおり	
必修科目	演習	1単位	2年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「人間関係」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「保育内容の理解と方法」			
担当教員の実務経験	公立保育園にて保育士として勤務 私立保育園にて保育士として勤務 公立こども園にて保育教諭として勤務 私立こども園にて保育教諭として勤務 私立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務 JICA 海外協力隊にて幼児教育隊員として勤務			

＜授業概要＞
現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。

＜授業の到達目標＞
1．領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。
2．幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
3．幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。

＜授業方法＞
・講義を踏まえた調べ学習をし、発表をした上で幼児をとりまく多様な人間関係について理解を深めていく。
・グループディスカッションによって他者の意見に関心をもち、自分の考えに取り込んでいく。

＜授業計画＞
第 1 回　現代社会と幼児の人間関係
第 2 回　家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの
第 3 回　3 歳未満児における人間関係の発達
第 4 回　身近な大人との関係を基盤とした育ち
第 5 回　幼児期の遊びや生活の中にある人と関わる力の育ち
第 6 回　個と集団における人間関係の育ち
第 7 回　乳幼児期の自立心の育ち
第 8 回　自我の芽生えを基盤とした自立への道
第 9 回　幼児期の協同性の育ち
第 10 回　目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち
第 11 回　幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち
第 12 回　他者との葛藤体験をする必要性の理解と、気持ちを調整する力の育ち
第 13 回　乳幼児期の人間関係の拡大
第 14 回　家庭・園・地域へと拡大する生活の場と関係性
第 15 回　幼児期に育みたい資質・能力と人間関係

＜授業時間外学修＞
前回の授業ノートや資料を熟読し、自分の言葉で説明できるようにしておく。

＜テキスト＞
『乳幼児と人間関係』（浅井拓久也　萌文書林）

＜参考書・参考資料＞
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）

＜成績評価＞
授業内課題（75%）　レポート（25%）

＜備考＞
特になし

幼児と造形表現			花村泰江	
必修科目	演習	１単位	２年次	単独
教員養成課程の区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目「表現」			
保育士養成課程の区分	保育の内容・方法に関する科目「幼児と造形表現」			
担当教員の実務経験	―			

＜授業概要＞
表現行為の基本的性質および子どもの発達段階に応じた表現の姿を、特に造形分野における「ものとの関わり」に着目しながら学ぶ。感性や創造性を育む子どもの表現過程を支える知識・態度を教育者としての基本的資質と捉え、学習者自身による造形表現の実体験的理解を伴いながら獲得することを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．領域「表現」の位置付けや教育的意義について理解している。
２．表現の発達過程に関する理解により、乳幼児期の表現に適切な受容・共感ができる。
３．素材に呼応する造形表現の性質について、身体の諸感覚を駆使した体験に基づき理解している。
４．表現過程を構成する諸要素の働きに基づき、具体的な表現の事例や姿について分析・検討できる。

＜授業方法＞
講義と実技演習を複合的に行う。実技演習では個人および集団による制作や遊びを取り扱う。

＜授業計画＞
第 1 回　【講義】ガイダンス（授業概要、受講上の注意点など）／表現領域のねらい及び内容
第 2 回　【講義】造形分野の視点から捉える人間の発達的特質
第 3 回　【講義】心身の育ちに応じた表現発達過程（描画の発達段階）
第 4 回　【演習】描画の発達段階の追体験①描画遊びと制作
第 5 回　【演習】描画の発達段階の追体験②描画から表現への発展
第 6 回　【講義・演習】前半まとめ　紙と用具（刃物）の取り扱い，表現への発展
第 7 回　【演習】感触的な描画、協同的活動①フィンガーペイント、スタンピング
第 8 回　【演習】感触的な描画、協同的活動①フィンガーペイント、スタンピングから制作へ
第 9 回　【演習】感触的な描画②クレパスと支持体，砂絵の具
第 10 回【演習】感触的な描画②クレパスと支持体，砂絵の具
第 11 回【演習】水粘土による表現　小麦粉粘土を自分達で作成して成形まで行う
第 12 回【講義】演習の振り返り／最終課題の導入
第 13 回【演習】ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察①演習活動
第 14 回【演習】ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察②観察レポート作成
第 15 回【演習】ペアワーク：素材の探求／表現過程の観察③まとめ

＜授業時間外学修＞
事後学修として、毎時の振り返り記述を実施・提出すること。また、各自記録する授業ノートおよび配布資料を照応・整理する機会を設けること。
事前学習として、資料の参照を指示する場合がある。

＜テキスト＞
平田智久(監)，小野和，宮野周(編著)『〈感じること〉からはじまる子どもの造形表現』，教育情報出版

＜参考書・参考資料＞
松岡宏明，『子供の世界　子供の造形』，三元社
幼稚園教育要領（平成２９年３月告示，文部科学省）フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成２９年３月告示，内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成２９年３月告示，厚生労働省）

＜成績評価＞
１．活動成果・成果物(４0%)　２．記録、提出物(４0%)　３．最終課題(２0%)

＜備考＞
全ての演習への参加・所定の課題提出が、学修を完遂するための必要条件です。
実技演習を行うにあたり、教員が示す活動に適した身支度と準備を整えること。

保育実践演習			髙橋 拓真／甲田 美香	
必修科目	演習	2単位	2年次	複数
教員養成課程の区分	教育実践に関する科目「教職実践演習」			
保育士養成課程の区分	総合演習「保育実践演習」			
担当教員の実務経験	甲田：私立こども園にて副園長・保育教諭として勤務			

＜授業概要＞

本演習は、これまでの学習を総合し、保育者として必要な実践力を身につけることを目的とする。これまで本校で学んできた音楽、造形、身体、言語等の「表現」を題材として、学生自身が興味・関心や得意分野をもとにテーマを設定し、チームで作品制作・研究活動に取り組む。

これまでに身につけた知識や技術を単に振り返るだけではなく、それらを組み合わせ、実際の保育を想定した表現活動へと発展させることで、学びの集大成として実践力を高める。

活動の過程では、自らの表現の特徴や課題を振り返り、苦手な表現にも挑戦するとともに、自分の得意分野をさらに発展させる。また、異なる考えや能力を持つ仲間と協働することを通して、主体性、協調性、課題解決力、コミュニケーション能力を養う。

最終的には、成果物の発表だけを目的とするのではなく、その学びや経験を保育の現場にどのように生かすことができるのかを考察し、子どもの表現を受け止め、引き出し、支えることのできる保育者としての実践につなげる。

＜授業の到達目標＞

・これまでに学んだ様々な表現方法を理解し、自分の得意・不得意を踏まえて、表現方法を選択・工夫することができる。

・自ら課題やテーマを設定し、試行錯誤しながら主体的に活動することができる。

・他者の考えや表現を尊重し、役割分担や意見交換を行いながら、チームで活動することができる。

・活動の過程で生じた課題を発見し、改善策を考え、実践することができる。

・自らの表現活動を保育の場にどのように生かすことができるかを考察し、具体的な保育実践につなげることができる。

・活動を振り返り、自分自身の表現や考え方の変化・成長を言語化することができる。

＜授業方法＞

演習・グループワーク・作品制作・研究・発表

＜授業計画＞

第1回 オリエンテーション／自己理解Ⅰ
第2回 自己理解Ⅱ／これまでの学びの振り返り
第3回 表現体験／多様な表現に触れる
第4回 自己理解Ⅲ／得意・不得意の整理
第5回 チーム形成Ⅰ／興味・関心の共有
第6回 チーム形成Ⅱ／テーマ設定
第7回 テーマ設定／企画立案
第8回 企画発表／制作・研究計画
第9回 制作・研究Ⅰ
第10回 制作・研究Ⅱ
第11回 制作・研究Ⅲ
第12回 中間発表／相互評価
第13回 改善Ⅰ
第14回 制作・研究Ⅳ
第15回 制作・研究Ⅴ
第16回 制作・研究Ⅵ
第17回 制作・研究Ⅶ
第18回 改善Ⅱ
第19回 改善Ⅲ
第20回 成果発表準備Ⅰ
第21回 成果発表準備Ⅱ
第22回 中間確認／ブラッシュアップ
第23回 制作・研究Ⅷ
第24回 制作・研究Ⅸ
第25回 最終調整Ⅰ
第26回 最終調整Ⅱ
第27回 発表リハーサル
第28回 成果発表Ⅰ
第29回 成果発表Ⅱ／相互評価
第30回 総括・振り返り／最終レポート

＜授業時間外学修＞
授業で取り組む作品制作・研究活動を発展させるため、授業内容の振り返り、関連する文献・資料や保育実践事例の調査、表現作品の鑑賞、個人練習、チームでの準備・打ち合わせ等を行う。
また、自らの表現や活動を振り返り、得意な表現を伸ばすとともに、苦手な表現や課題について次の活動につながる目標を設定する。
　さらに、活動を保育実践と関連づけ、子どもの表現を引き出すための援助や環境構成について自主的に考察する。

＜テキスト＞
特になし

＜参考書・参考資料＞
特になし

＜成績評価＞
提出物課題(リフレクションシート／私の表現マップ／計画書／相互評価表)40%
発表（中間発表／成果発表）40%
最終振り返り(レポート) 20%

＜備考＞
特になし